

2025

7月-9月

安息日聖書教科

Vol. 101 No.3



パート3

ヨハネによる福音 からの教訓

キリストのうちに宿ることにより、わたしたちは愛するこのお方のために
喜び、また苦しむために強められる。

目次

1. イエス、シモン、マリヤ	5
2. 勝利の入城	10
3. イエスにお目にかかりたい	15
4. イエス、しもべのしもべ	20
5. 道であり、真理であり、命	26
6. 聖霊の約束	31
7. イエス、まことのぶどうの木	36
8. 兄弟愛	41
9. 聖霊の使命	46
10. キリストが弟子たちのために祈られる (1)	52
11. キリストが弟子たちのために祈られる (2)	57
12. キリストの審問	62
13. シモン・ペテロ	67

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A.)

安息日聖書教科
Vol.101, No.3

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368-0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607-1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト: Adobe Stock on
the front cover and pp. 4,
25, 72; Map Resources on
pp. 51, 72.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

わたしたちが、ヨハネによる福音書からの教訓を学び続けるときに、イエスの地上の公生涯の終わりの日々へと近づいていきます。預言の霊は次のように述べています。「われわれは、キリストの一生について毎日瞑想する時間を持つがよい。イエスの一生の要点を一つ一つとらえ、各場面ごとに最後の場面を想像のうちにとらえるべきである。このようにして、われわれのために払われたイエスの大犠牲を心に思いめぐらすとき、キリストに対するわれわれの信頼はもっと堅固になり、われわれの愛はめざめさせられ、われわれはもっと深くキリストの精神を吹きこまれる。もし最後に救われたければ、われわれは十字架のもとで悔い改め、心がくだかることについて教訓を学ばねばならない。」(各時代の希望上巻 80)

イエス・キリストである真の言葉 (Logos) について、使徒は神の知恵、ご意志、神の力の受肉した表現だと述べています。このお方を通して、すべての人に対し、救いの道が開かれ、明らかにされました。イエスは万物の創造者、命の源、世の光、御父の思いの生ける現われとして言及されています。「すべての者が悔改めに至ることを望」まれる神のみ旨はまた、聖霊の働きを通して、ヨハネによって示され、わたしたちをゲッセマネへと導いています (ペテロ第二 3:9)。そこで、人類の運命が決定されたのでした。

この書の主要な目的の一つは、散らされていたクリスチャン信徒たち、イエスとの個人的な接触がなく、異教の考えを吸収していた人々が真の言 (Logos)、真の光に出会う手助けをすることでした。ヨハネの書物のもう一つの重要な目的は、クリスチャンを全般的に、世紀末に教会が脅かされるいくつかの危険に直面する準備をさせることでした。初期の信心は減少していました (黙示録 2:4)、そして世の愛が、神の民の間で地歩を得つつありました (ヨハネ第一 2:15)。グノーシス主義のような異端が群れを侵食しつつありました。グノーシス主義はキリストが真に受肉し、人間の性質を取られたことを否定します。グノーシス主義者は、人類が実際にキリストを見たのではなく、彼らが見たのは、幻影にすぎないと教えました。ですから、ヨハネ 1:14 に表されている真理は、特に今日、重要です。教会を脅かす別の危険は、ローマカトリックからの迫害でした。

ヨハネ書が、初期のクリスチャン教会にとって大きな助けであったことは疑いの余地がありません。それはその後の各時代を通じてキリストに従う人々にとって大きな助けとなってきました。そしてそれは今日わたしたちにとって大きな助けなのです。

わたしたちがこの教科シリーズを通して学んでいくときに、神の御霊の導きが教師にも生徒にも与えられますように！

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金 タヒチのアルー教会

美しいトロピカルで理想的な風景を連想させるタヒチ島は、フランスの海外領土であるフランス領ポリネシアに位置しており、121 の島々から成り立っています。陸地面積は 1,359 平方マイル (3,418 平方キロメートル) で、南太平洋の 1,242 平方マイル (2,000 平方キロメートル) を超える範囲に広がっています。

歴史的に、これらの多くの島々に住む人々の多神教的な信仰は、太陽崇拜、食人、精霊崇拜などの多くの

異教的な習慣を生み出しました。1797 年にこれらの島々に到着したイギリスのキリスト教の宣教師たちの努力によって、キリスト教の到来は変化をもたらしました。その後、フランスは 1800 年代後半にこの地域を植民地化しました。今日、人口約 279,000 人の中で、54% がプロテスタント、38% がカトリックであり、残りは他の信仰を持っています。

1982 年、A.C. サス兄の訪問に伴って、改革のメッセージがフレンチポリネシアに伝えられました。最初のメンバーは合計 24 人で、1 年後にバプテスマを受けました。それ以来、福音のメッセージは島々に広がり続け、いくつかの教会グループが形成されました。

残念ながら今日に至るまで、フランス領ポリネシアのわたしたちの教会には自分たちの教会 (建物) がなく、わたしたちの兄弟姉妹は借りた施設や教会員が私有する土地で集まっています。神の恵みにより、2013 年に多くの祈りと断食の後、タヒチのパペーテからほぼ 20 キロの距離にあるアリュエ地区で土地が見つかりました。

この教会の小さな会員は、長年にわたり自己犠牲の努力をしてきました。毎週、ベジタリアン料理を作って販売し、この土地の購入を可能にしました。この土地を購入するために懸命に働いてきた兄弟姉妹の模範的な努力にもかかわらず、地上歴史の最後の日々において真理のメッセージを広めるために、建物を大いに必要としています。

そこで世界中の兄弟姉妹がたに、フランス領ポリネシアの首都アウレに、地元教会として、およびセミナー、キャンプミーティング、健康活動のための場所となる建物を建設する資金を供給するためにぜひ協力していただきますよう、お願い申し上げます。

今日歴代志上 22 : 19 の「たつて主なる神の聖所を建て」とわたしたちを引き上げてくれる言葉が鳴り響いています。神が皆さんを豊かに祝福して下さり、世界中の神のみ働きが前進しますように。

フランス領ポリネシアにいる皆さんの兄弟姉妹



イエス、シモン、マリヤ

暗唱聖句：「それであなたに言うが、この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない」。(ルカによる福音書 7:47)

「イエスは、ひとりびとりの魂の事情をご存じである。自分は罪深い者だ、とても罪深い者だとあなたは言うだろう。あるいはそうかも知れない。しかしあなたが悪ければ悪いほど、イエスが必要なのである。主は泣いて悔い改める者を決してしりぞけられない。主は明らかに示すことがおできになることを全部だれにでもお告げになるとは限らない。主は、ふるえている魂に勇気を出しなさいと命じられる。主はゆるしと回復とを求めてみもとに来るすべての者を心よくゆるしてくださる。」(各時代の希望中巻 396-397)

推奨文献： 教会への証 4 巻 485-487, 550-552

1. ベタニヤへの最後の訪問

日/6月29日

- a. キリストがベタニヤへ訪問した当時、エルサレムはどのような状況であったか、またこのことがどのようにシモンの宴会に出席したある人々に影響を及ぼしたかもしれないかを述べなさい (ヨハネによる福音書 11:55-57; 詩篇 55:21)。

「ベタニヤのシモンは、イエスの弟子とみなされていた。彼は、公然とキリストに従う者の仲間に加わった少数のパリサイ人の一人であった。シモンはイエスを教師としてみとめ、イエスがメシヤであるようにと望んでいたが、救い主として受け入れてはいなかった。彼の品性は変えられていなかったし、彼の主義は変化していなかった。」(各時代の希望中巻 380)

- b. シモンはどのような大きな祝福を受けていましたか。彼はどのようにイエスに自分の感謝を示しましたか (ルカによる福音書 7:36)。

「シモンはらい病をいやしてもらっていたので、彼がイエスにひかれたのはそのためであった。彼は、感謝の気持を表わしたいと望み、キリストの最後のベタニヤ訪問の時に、救い主と弟子たちにごちそうをした。」(同上)

- a. 社交の集まりでしばしば存在する背後に隠された種類の状況を述べなさい。またそれはこの時に、どのように存在していましたか (詩篇 55:21)。

「このごちそうの席で多くのユダヤ人がいっしょになった。そのころ、エルサレムでは人々が非常に騒いでいた。キリストとその使命は、かつてなかったほどに人々の注意をひいていた。ごちそうにやってきた人たちは、イエスの行動にこまかく注目し、中には悪意のある目で見ている人たちがいた。」(各時代の希望中巻 380)

- b. シモンの宴会でのマリヤの行動を述べなさい (ルカによる福音書 7:37, 38; ヨハネによる福音書 12:3)。

「マリヤはイエスの口から出るひとことばひとことばを熱心にきいていた。イエスが、そのあわれみによって、マリヤの罪をゆるし、また愛する兄弟を墓からよみがえらせてくださったので、マリヤの心は感謝に満たされていた。彼女は、イエスをご自分の死が近づいていることを語られるのを聞いていたので、深い愛とかなしみのうちに、イエスに尊敬を示したいと熱望していた。彼女は、イエスのおからだに油をそそぐために、自分で大きな犠牲を払って、『非常に高価で純粋なナルドの香油が入れてある石膏のつぼ』を買っていた (マルコ 14:3)。しかしいま、多くの者は、イエスが王位につかれるのだと宣言していた。マリヤの悲しみはよろこびに変わり、彼女は自分が真先に主に尊敬を示したいと熱望した。香油のつぼを割ると、彼女は、中の油をイエスの頭と足にそそいだ。それから彼女は、泣きながらひざまずいて、その涙でイエスの足をぬらし、長くたれた髪の毛でぬぐった。」(同上 382,384)

- c. ユダはこの行為をどのように受け止めましたか (ヨハネによる福音書 12:4, 5; マタイによる福音書 26:8, 9)。

「マリヤは、人々の目を避けたいと思っていた。彼女の動作は、人々の目にふれないですんだかも知れないが、香油のかおりが部屋に満ちたので居合わせたすべての人たちにその行為が知れた。ユダはこの行為を非常に不愉快に思った。このことについてキリストが言われることばを聞くのを待たないで、彼は、そばの人たちに不満をささやき始め、キリストがこのような浪費をゆるされることを非難した。彼は、不満をひき起すようなずるい言い方をした。」(同上 384)

- a. 現実には、ユダはなぜマリヤがイエスの足に油を注いだ行為を非難したのですか（ヨハネによる福音書 12:6）。

「ユダは弟子たちの会計係であった。彼は弟子たちのわずかな貯えの中からひそかに自分自身のためにひき出して使っていたので、彼らの貯えはだんだん減って、乏しいはした金になってしまっていた。彼は手に入れられるものは全部袋に入れたがった。袋の中の金はしばしば貧しい人たちを助けるために利用された。ユダが必要でないと考ええるようなものを弟子たちが買うと、『どうしてこんな浪費をするのか。どうしてこれだけの値段のお金を、わたしが貧しい人たちのために持っているこの袋に入れないのか』と彼はよく言った。いまマリヤの行為は、ユダを赤面させるほど、彼の利己心といちじるしい対照をなしていた。ユダは、いつもの通り、彼女の献げ物に反対する正しい動機を示そうとした。彼は弟子たちの方を向いてたずねた。『なぜこの香油を三百デナリに売って、貧しい人たちに、施さなかったのか』。彼がこう言ったのは、貧しい人たちに対する思いやりがあったからではなく、自分が盗人であり、財布を預かっていて、その中身をごまかしていたからであった』（ヨハネ 12:5,6）。ユダは、貧しい人たちに対して思いやりはなかった。もしマリヤの香油を売って、その収入をユダの手に渡したとしても、貧乏人は何の益も受けなかったのである。」（各時代の希望中巻 384, 385）

- b. 弟子たちはユダをどのようにみなしましたか。また彼は自分自身のことをどのようにみなしましたか（ヨハネによる福音書 13:29）。

「ユダは自分自身の実行的な能力を高く評価していた。彼は、自分が財政家として、仲間の弟子たちよりもずっとすぐれていると思い、彼らにもそう思いこませていた。彼は、弟子たちの信用を得、彼らに対して大きな勢力を持っていた。貧しい人々に対するユダの同情的なことばにだまされ、彼のたくみな暗示によって、彼らは、マリヤの信心を不信の目をもって見た。」（同上 385）

- c. 他の人々に静かにつぶやく人々を、しばしば何がかり立てるのか、またそれは、どのようにその標的となった繊細な魂に影響を及ぼす可能性がありますか（ユダの手紙 1:16）。

「マリヤはこの非難の声をきいた。彼女の心はふるえた。彼女は、姉のマルタが自分の浪費を責めるだろうと恐れた。主もまた自分のことを思慮の足りない女だと思われるだろう。あやまりも、言い訳もしないで、彼女は引きさがろうとした。」（同上）

- a. シモンは自分自身のパリサイ的な誇りとマリヤの行為によってどのように影響されましたか。また彼はどのようにイエスを判断しましたか(ルカによる福音書 7:39)。

「主人役のシモンは、マリヤの贈り物に対するユダの非難に心を動かされ、イエスの行為に驚いた。彼のパリサイ的な誇りは傷つけられた。……

キリストは、シモンのらい病をなおすことによって、彼を生けるしかばねから救われたのだった。しかし……いまシモンは、救い主が預言者であるかどうかを疑った。この女が近づくのキリストがゆるされたので、ゆるすことができないほど大きな罪を持っている者としてこの女を憤然とキリストがはねつけられなかったのも、またこの女が墮落していることをキリストがみとめるような様子をされなかったのも、シモンは、イエスが預言者でないと考えたかった。」(各時代の希望中巻 392)

- b. イエスは、シモンとマリヤのどのような秘密の生活の知識を明らかにしましたか(ルカによる福音書 7:44-46)。

「[シモン] は、神のみ子が神の方法に従って、あわれみ深く、やさしく、いつくしみをもってふるまわれなければならないということに気がつかなかった。シモンの方法は、悔い改めたマリヤの奉仕を無視することであった。彼女がキリストの足に接吻して香油を塗った行為は、シモンの冷酷な心をいらだたせた。キリストがもし預言者ならば、罪人をみわけて、譴責されるだろうと、彼は思った。……

ナタンがダビデに対してそうしたように、キリストは譬のヴェールの下に急所を突くことばをかくされた。キリストは、自分自身に宣告をくだす責任を主人のシモンに負わせられた。シモンは、自分がいま軽蔑している女を罪に陥れたのであった。マリヤはシモンからひどく悪いことをされたのであった。……しかしシモンは、自分の方がマリヤよりも正しいと思っていたので、イエスは、彼の不義が実際にどれほど大きいものであるかを彼にみとめさせようと望まれた。…シモンの罪はマリヤの罪よりも大きいということを、イエスは、シモンにお示しになりたかったのである。」(各時代の希望中巻 393, 394)

- c. イエスがマリヤの罪は許されたと述べられたとき、ユダヤ人たちはどう反応しましたか(ルカによる福音書 7:48, 49)。キリストの譬はシモンの心にどのような影響を与えましたか。

「シモンはいま自分自身を新しい光の中で見はじめた。彼は、マリヤが預言者以上のおかたからどのように見られているかを知った。彼は、キリストが鋭い預言者の目をもって彼女の愛と信心を見抜かれたことを知った。彼は恥ずかしさにおそわれ、自分よりもすぐれたおかたの前にいることに気がついた。」(同上 394)

- a. わたしたちには結果が不確かに見えても、なぜシモンのような罪人に率直に語るよう励まされるべきなのでしょう(箴言 9:8; ヤコブの手紙 5:20)。

「マリヤがゆるされた罪人であったのに、〔シモン〕はゆるされていない罪人であった。シモンがマリヤに強制しようと望んだ正義の厳格な法則が、彼を罪に定めた。

シモンは、イエスが自分を客たちの前で公然と非難されなかった親切さに、心を打たれた。シモンは、マリヤに望んだような扱い方をされなかった。彼は、イエスが彼の不義をほかの人たちにばくろすることを望まれないで、この問題の事実を述べることによって彼の心を自覚させ、あわれみ深い親切さによって彼の心をやわらげようとされたことを知った。公然ときびしく非難されたら、シモンは、心をとぎして悔い改めなかったであろうが、忍耐深い教えによって、彼は自分の誤りをさとった。彼は自分が主に対して大きな負債を負っていることを知った。彼の傲慢心はへりくだり、彼は悔い改めた。そしてこの傲慢なパリサイ人は、けんそんで、自己犠牲的な弟子となった。」(各時代の希望中巻 395)

- b. マリヤの行為について、イエスは何と言われましたか。またどのような励ましの言葉をマリヤに語られましたか(マタイによる福音書 26:12, 13; ルカによる福音書 7:50)。

「マリヤは非常に悪い罪人としてみられていたが、キリストは、彼女をそうした生活に追いやった事情をご存じだった。主はマリヤの魂から望みのともし火をすっかり消してしまうこともおできになったのであるが、そうはなさらなかった。マリヤを絶望と滅亡から引きあげたのはイエスであった。彼女の心と意思を支配していた悪魔を責められるイエスのことばを、彼女は七回聞いた。彼女は、自分のために天父に祈ってくださるイエスの強い叫びを聞いた。彼女は、イエスのけがれない純潔さのうちにあって罪がどんなに憎むべきものであるかを知り、キリストの力によって勝利したのだった。」(各時代の希望中巻 395, 396)

個人的な復習問題

金/7月4日

1. わたしが神と歩むとき、わたしはどのようにマリヤのより良い資質を培うことができますか。
2. わたしは宴でのユダの態度に目をとめる際、どの警告を受けるべきですか。
3. シモンが自分の思想によって落ち込んだ落とし穴を、わたしはどのように避けられますか。
4. キリストがマリヤに語られた慰めの言葉は、どのようにわたしの生涯に当てはめることができますか。
5. イエスがシモンにその過ちを気づかせた方法から、何を学ぶべきですか。

勝利の入城

暗唱聖句：「すなわち、『シオンの娘に告げよ、見よ、あなたの王がおいでになる、柔和なおかたで、ろばに乗って、くびきを負うろばの子に乗って。』」（マタイによる福音書 21:5）

「キリストは、エルサレムをその民とともに救うためにおいでになった。しかしパリサイ人の誇り、偽善、ねたみ、敵意が主の目的の達成をさまたげていた。」（各時代の希望下巻 13）

推奨文献： 各時代の希望下巻 1－16

1. オリブ山で

日/7月6日

- a. イエスと弟子たちがエルサレムに近づく際、イエスはどの指示をもって、あらかじめ弟子たちの二人をつかわされましたか（マタイによる福音書 21:1-5）。

「イエスは、エルサレムに乗り入れるために、ろばと子ろばを引いてくるように、二人の弟子をおつかわしになった。救い主は、誕生の時には、見知らぬ人たちの好意にたよられた。イエスがおやすみになった馬ぶねは借りた休み場所であった。『丘の上の千々の家畜』はイエスのものであるのに（詩篇 50:10）、いま彼は、王としてエルサレムに入城するためにお乗りになる家畜を手に入れるのに見知らぬ人の親切にたよられる。」（各時代の希望下巻 2）

- b. 弟子たちの行動を描写しなさい（マタイによる福音書 21:6, 7）。

「弟子たちは、よろこびいさんと、この家畜の上に自分たちの上着をひろげ、それに主をお乗せした。これまでイエスはいつも徒歩で旅行されたので、弟子たちは、主がいまご自分からろばに乗られることをはじめはふしぎに思った。しかし主がいま首都にはいられ、王であることを宣言し、ご自分の王権を主張されるのだというよろこばしい思いで、彼らの胸は希望に燃えた。」（同上 2）

- a. 群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞いたとき、何と言いましたか（ヨハネによる福音書 12:12, 13）。

「使いに行く途中、〔弟子たち〕はこの輝かしい期待をイエスの友人たちに伝えたので、興奮は遠近にひろがり、人々の期待は最高潮に達した。」（各時代の希望下巻 2）

- b. 群衆はこの喜ばしい時に、何によってイエスをメシヤとして歓迎しましたか（ゼカリヤ書 9:9; ヨハネによる福音書 12:14, 15）。

「キリストは、王の入城について、ユダヤ人の慣例に従っておられた。キリストが乗られた動物はイスラエルの王たちが乗った動物であって、預言には、このようにしてメシヤが王国にこられるということが予告されていた。キリストが小馬にお乗りになるやいなや、勝利の叫びが大気をふるわせた。群衆は、キリストをメシヤ、彼らの王として歓呼した。イエスはいま、以前には決しておゆるしにならなかった敬意をお受けになったので、弟子たちはこのことを、イエスが王位につかれるのを見ることによって自分たちのうれしい望みが実現される証拠として受けとった。」（同上 2, 3）

- c. どのように民は救出を願って、喜びと共に詩篇記者の言葉をこだまさせましたか（マタイによる福音書 21:9; 詩篇 118:26）。

「群衆は、彼らの解放の時が近づいたことを確信した。彼らは、ローマの軍隊がエルサレムから追われ、イスラエルがもう一度独立国家になるときのことを胸にえがいた。だれもがよろこび、興奮した。人々は先を争ってキリストに敬意をささげた。彼らは、外面的なはなやかさやきらびやかさを示すことはできなかったが、楽しい心からの礼拝を主にささげた。彼らは高価な贈物をささげることはできなかったが、主の道に彼らの上着をひろげて敷物とし、葉のしげったオリーブの枝やしゅろの枝を道にまきちらした。彼らは、勝利の行列を王家の旗でみちびくことはできなかったが、自然界の勝利の象徴であるしゅろの木のひろがった枝を切りとり、それを高らかにうちふって声高く歓呼し、ホサナと叫んだ。」（同上 3）

- a. パリサイ人たちのある人々は、どのようにキリストへの賛美のデモンストレーションに反応しましたか（ヨハネによる福音書 12:19; ルカによる福音書 19:39）。

「多くのパリサイ人たちが、この光景を見て、ねたみと敵意に燃え、民衆の人気の流れを変えようとした。彼らは、あらゆる権威をもって、人々を沈黙させようと試みた。しかし彼らの訴えとおどかしは熱心さを増したにすぎなかった。彼らはこの大群衆が、数の力で、イエスを王にすることを恐れた。最後の手段として、彼らは群衆を押しわけて救い主のおられるところへ近づき、非難と脅迫のことばで、『先生、あなたの弟子たちをおしかり下さい』とイエスに呼びかけた（ルカ 19:39）。彼らは、こんな騒がしいデモンストレーションは不法であり、当局から許可されないだろうと断言した。」（各時代の希望下巻 7, 8）

- b. イエスは彼らにどのようにお答えになりましたか（ルカによる福音書 19:40）。

「この勝利の光景は、神ご自身がお定めになったものであった。それは預言者によって予告されていて、人間には神の目的をそらす力はなかった。もし人間が神のご計画を実行しなかったら、神はいのちのない石に声を与え、石が賛美の叫びをもってみ子を歓呼したであろう。」（同上 8）

「祭司と役人たちが、世界に義の太陽からの栄光の光線を閉め出そうとするのは、太陽の輝きを地上から取り除こうとするようなものであった。あらゆる反対にもかかわらず、キリストの王国は民によって告白された。」（神の驚くべき恵み 47）

「神の働きは、人間がそれを妨げたり、崩壊させるためにできることをすべてなしでも、いつも前進するのである。」（イエスの物語 85）

- c. このとき驚くほど賛美があふれ出たことは、どのように群衆の多くの人が認めた通り、預言の成就だったのですか。（ゼカリヤ書 9:9）。

「沈黙させられたパリサイ人たちは後に引きさがると、ゼカリヤの言葉が何百人もの声によって語られた。〔ゼカリヤ 9:9 引用。〕」（同上 572-575）

- a. イエスはご自分のエルサレムへの勝利の入城の日に、どの目的のために、このような大きなデモンストレーションをお許しになったのですか（ヨハネによる福音書 12:16, 23-28）。

「イエスは、ご自分の地上生涯において、それまでこのようなデモンストレーションをおゆるしにならなかった。イエスははっきりと結果を予見しておられた。それはイエスを十字架につけることになるのであった。しかしこのように公然とご自身をあがない主として示されることはイエスのみこころであった。イエスは墮落した世に対すご自分の使命の最後の仕上げとなる犠牲に人々の注意を引こうと望まれた。人々は過越節を守るためにエルサレムに集まってきていたが、小羊の本体であられるイエスが、自発的な行為によって、ご自身を供え物として聖別された。これにつづく、すべての時代のキリスト教会は、世の罪のためのイエスの死を、深い思想と研究の主題にすることが必要であった。これに関係のあるひとつひとつの事実が、疑いの余地がないまでに証明されねばならないのであった。だからいますべての人の目をイエスに向ける必要があった。イエスの大いなる犠牲に先立ついろいろな出来事は、人々の注意を犠牲そのものにひきつけるようなものでなければならない。イエスのエルサレム入城に伴うこのようなデモンストレーションのあとで、すべての人々の目は、イエスの最後の場面への急速な進展を追うのであった。

この凱旋（がいせん）式に関連した出来事はすべての人々の話題になり、どの人の心にもイエスを思わせるのであった。イエスが十字架につけられたのち、多くの人たちが、イエスの裁判と死に関連してこれらの出来事を思い起こすのであった。彼らは預言を調べるようになり、イエスがメシヤであることをさとするのであった。そして全地において、この信仰に改宗する者がふえるのであった。」（各時代の希望 下巻 5, 6）

- b. 驚いたことに、イエスが町全体を見渡せるところに来られると、何をされましたか。それはなぜでしたか（ルカによる福音書 19:41-44）。

「すべての人々が敬意をささげているよろこびの場面のさなかで、イスラエルの王が涙を流しておられる。それはよろこびの無言の涙ではなく、おさえきれない苦悩の涙とうめきであった。群衆は突然暗い気持になった。歓呼の叫び声が沈黙した。多くの者が理解のできない悲しみに同情して泣いた。

イエスの涙は、ご自分の苦難を予想されたためではなかった。.... イエスの心を刺し通したのは、エルサレムの光景であった。神のみ子をこばみ、その愛をあざけり、その大いなる奇跡を見ても罪を自覚しようとしなくて、主の生命をとろうとしているエルサレムであった。あがない主をこばむ罪のうちにあるエルサレムの現状...を、イエスはご存じであった。」（同上 11）

- a. イエスがエルサレムにお入りになると、役人たちはどの質問をしましたか。また彼らは騒ぎの中でどのような答えを得ましたか（マタイによる福音書 21:10, 11）。

「ちょうどオリブ山をくだろうとするところで、行列は役人たちにさえぎられる。彼らはこのさわがしいよろこびの理由をたずねる。彼らが、『これは、いったい、どなただろう』とたずねると、弟子たちは靈感に満たされて、その質問に答える。彼らは雄弁な口調で、キリストに関する預言をくりかえす。」（各時代の希望下巻 15）

- b. イエスが町に着かれるとすぐに、宮で何をなさいましたか（マタイによる福音書 21:12-16; 詩篇 8:2）。

「三年前に、宮の役人たちは、イエスの命令に逃げ出して恥をかいた。それ以来彼らは、自分たちが恐れを感じたことと、ただひとりのいやしい人間に無条件に従ったことをふしぎに思っていた。こんな不面目な屈服をふたたびくりかえしてはならないと彼らは思っていた。ところが彼らは、今度は前よりもっと恐ろしくなり、もっとあわててイエスの命令に従ったのである。イエスの権威を疑う者はだれもなかった。祭司たちと商人たちは家畜を追い立てながら、イエスの前から逃げ出した。....

群衆が宮から逃げ出したあとには、まだ多くの者が残っていた。この人たちと新しくやってきた人たちがいっしょになり、宮の庭はもう一度病人や死にかけている人たちでいっぱいになった。そこでもう一度イエスはこれらの人々に奉仕された。」（同上 32）

個人的な復習問題

金/7月11日

1. パリサイ人たちの態度は、今日、どのように頻繁に繰り返されますか。
2. キリストを約束された王として尊んだ人々は、どのような特徴を持っていましたか。
3. イエスがエルサレムのために泣かれたように、何がイエスをわたしのために泣かせているかもしれませんか。
4. ゼカリヤ書 9:9 の預言は、どのようにこの時、成就しましたか。
5. キリストはなぜこの時に、このような非常に公な賞賛をお許しになったのですか。

イエスにお目にかかりたい

暗唱聖句：「よくよくあなたがたに言うておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。」
(ヨハネによる福音書 12:24)

「キリストの死によってのみ、サタン王国は打ち倒されるのである。そうすることによってのみ、人があがなわれ、神はあがめられるのである。」(各時代の希望 下巻 86)

推奨文献： キリストの実物教訓 59-69

1. 東と西から

日/7月13日

- a. イエスの誕生の時―生涯の開始―に、だれが探しにきましたか。また彼らはこのお方に何を持ってきましたか(マタイによる福音書 2:1, 2, 10, 11)。
- b. 今、このお方の働きの最後に、だれがイエスを探しましたか(ヨハネによる福音書 12:20)。このことは、わたしたちに何を教えますか(マタイによる福音書 8:11)。

「キリストの生涯の初めに東方から博士たちがやってきたように、キリストの生涯の終わりに、〔このギリシャ人たち〕は救い主をみいだすために西方からやってきた。キリストがお生まれになった時、ユダヤ人は自分たちの野心的な計画に夢中になっていたので、キリストの来臨を知らなかった。異教国のマギたちは、救い主を拝するために献げ物をたずさえてうまぶねへやってきた。同様に、ギリシャ人たちは、世の諸国諸族諸民を代表してイエスに会いにやってきた。同じように全地の各時代の人々は、救い主の十字架に引きよせられるのである。....

一部の人たちが、キリストは祭司たちと役人たちを宮から追い出されたということ、またキリストがダビデの位を占め、イスラエルの王として支配されるということ想像して、そのうわさをひろめた。ギリシャ人たちはキリストの使命について真相を知りたがった。」(各時代の希望 下巻 81)

- a. ギリシャ人はどのように自分たちの願望を表明しましたか（ヨハネによる福音書 12:21）。
- b. イエスが要望について知った過程とこのお方の心がそれにどのように応じたのかを説明しなさい（ヨハネによる福音書 12:22, 23）。

「キリストは、世の人々の飢えた 叫びを反響している『イエスにお目にかかりたいのですが』という熱心な願いを聞かれると、お顔が明るく輝き、『人の子が栄光を受ける時がきた』と言われた。ギリシャ人たちの願いの中に、主はご自分の大いなる犠牲の結果についての保証をごらんになった。」（各時代の希望下巻 79, 81）

「このたのみがイエスに伝えられた時、イエスはユダヤ人以外の者はだれもはいれない宮の内部におられたが、外庭のギリシャ人たちのところへ出てこられて、彼らに自ら面接された。」（同上 81）

- c. キリストがこれらの異邦人に対して出て行かれた優しい関心は、どのようにわたしたちの動機となるべきですか（ルカによる福音書 14:23; 伝道の書 11:1, 2）。

「わたしたちは真理の知識を聞く気のあるすべての人に広めるためのあらゆる努力をすべきである。そして聞こうとする者は多くいるのである。わたしたちの大きな諸都市の全体に神は何が真理かに関心を持っている正直な魂を持っておられる。…メッセージをくり返しなさい、メッセージをくり返しなさいというのが、わたしにくり返し語られた言葉である。最初に宣布された場所で、また教会につぐ教会が真理の側に立場を取った場所、すなわち顕著な方法で神の力がメッセージに対して証している場所で、メッセージをくり返すよう、わが民に命じなさい。」（伝道 394）

「わたしたちは特別なすばらしい展示をしなければならないとは命じられていない。真理は大路や垣根で宣布されなければならない。こうして、この働きは繊細で合理的な方法でなされなければならないのである。…見せることに関するかぎり、キリストがわたしたちの世界でなされた働きが、わたしたちの模範となるべきである。キリストがご自分の働きにおいて芝居がかったことや目立つことから離れておられたのと同じように、わたしたちも離れていなければならない。宗教は、それ自体の純粋で神聖な、向上させ、聖化する感化力を発揮し、霊的な命と救いをもたらすものの、センセーションは宗教ではない。」（同上 396）

- a. イエスは麦の粒とご自分の使命をどのように対比なさいましたか（ヨハネによる福音書 12:24）。

「地中に埋もれた種は実を生じ、こんどはその実が播かれる。こうして収穫は増大する。同様に、カルバリーの十字架上におけるキリストの死は、永遠の生命にいたる実を結ぶのである。この犠牲について瞑想することは、その実として永遠の時代にわたって生きる者の輝かしいよろこびである。

自分自身の生命を保存する穀物は実を生ずることができない。それは一粒のままである。キリストは、もしその気になられたら、ご自分が死ななくてもよかったのである。しかし、もし死ななかったら、キリストはひとりのままでなければならない。息子娘たちを神につれて行くことはおできにならない。ご自分の生命を放棄することによってのみ、キリストは人類に生命を与えることがおできになる。死ぬために地に落ちることによってのみ、キリストはあの大収穫、すなわち諸国諸族諸民の中から神のみもとにあがなわれた大群衆の種となることがおできになるのである。」（各時代の希望下巻 84）

- b. イエスは種の譬から、どのように第二の適用をなさいましたか（ヨハネによる福音書 12:25, 26）。

「キリストとともに働く者として実を生じさせたい者は、みなまず地に落ちて死なねばならない。生命はこの世の必要といううねの中に投げ込まねばならない。自己を愛する思い、自己中心の思いは滅びなければならない。自己犠牲の法則は、自己保存の法則である。農夫は穀物を投げ捨てることによってそれを保存する。人間の生命も同様である。与えることは生きることである。保存される生命は神と人との奉仕に惜し気なく与えられる生命である。キリストのためにこの世の生命を犠牲にする者は永遠にいたる生命としてこれを保つのである。

自分のために費やされる人生は食べてしまった穀物のようなものである。それは消えて無くなり、何の増加もない。人はできるだけ自分のために集めるかもしれない。自分のために生き、考え、計画するかもしれない。しかし彼のいのちは過ぎ去って、何ももの残らない。自分に仕える法則は自分を滅ぼす法則である。

〔ヨハネ 12:26 引用。〕イエスとともに犠牲の十字架を負うた者はみな、キリストとともにその栄光にあずかる者となる。ご自分の弟子たちがキリストとともに栄光を受けるということが、屈辱と苦痛の中にあつてキリストのよろこびであつた。彼らはキリストの自己犠牲の実である。」（同上 85）

- a. イエスは、十字架上のご自分の死を考えて、どのような祈りをお捧げになりましたか(ヨハネによる福音書 12:27, 28 (上句))。

「事前にキリストはすでににがいさかずきから飲んでおられた。キリストの人性は、ご自分が捨てられる時を思っ、たじろいでいた。その時には、どう見ても、キリストは神からさえ捨てられ、キリストが神から打たれ、たたかれ、苦しめられるのをすべての者が見るのであった。キリストは、人目にさらされ、極悪の罪人のように取り扱われ、恥ずかしい不名誉な死に会うことをちゅうちょされた。暗黒の勢力との戦いについての予感、人類の罪とがについての恐るべき重荷の思い、罪のゆえの天父の怒りが、イエスの精神をめいらせ、死の青白さをイエスの顔にひろがらせた。

その時、天父のみこころに対する気高い服従がみられた。『わたしはこのために、この時に至ったのです。父よ、み名があがめられますように』(ヨハネ 12:27)。キリストの死によってのみ、サタンの王国は打ち倒されるのである。そうすることによってのみ、人があがなわれ、神はあがめられるのである。イエスは苦悩に同意され、犠牲を受け入れられた。」(各時代の希望下巻 86)

- b. 天からどのような答えが聞かれましたか(ヨハネによる福音書 12:28 (下句))。そばに立っていた群衆は何と言いましたか(ヨハネによる福音書 12:29)。

「この声がきこえると、光が雲からさして、あたかも無限な力の神の両腕が火の壁のようにキリストをかこむかのように、キリストをとりまいた。人々は恐れと驚きの念でこの光景を見た。だれもあえて口を開こうとしなかった。だまって息をこらしたまま、みんなはイエスを見つめて立っていた。天父のあかしが与えられると、雲は晴れて天に散った。天父とみ子との目に見えるまじわりはその時やんだ。

すると、そこに立っていた群衆がこれを聞いて、『雷がなったのだ』と言い、ほかの人たちは、『御使が彼に話しかけたのだ』と言った」(ヨハネ 12:29)。しかしたずねてきたギリシャ人たちは、その雲を見、その声をきき、その意味をさとって、実際にキリストをみとめた。彼らには、キリストが神からつかわされたおかたとしてあらわされた。

公生涯の初めにイエスがバプテスマを受けられた時に、神のみ声がきこえ、それは山上の変貌の時にふたたびきこえた。いま公生涯の終わりに、それはもっと大ぜいの人々によって、特殊な事情のもとに三度聞かれた。」(同上 87)

- a. イエスがなされた数多くの奇跡—加えて、天から再び鳴り響いた声—にもかかわらず、ユダヤ時の大部分は、イエスに対してどのように答えましたか（ヨハネによる福音書 12:37-41）。

「イエスはユダヤ人の状態について最も厳粛な事実を語られたばかりであった。主は最後の訴えをなし、ユダヤ人の滅亡を宣告されたのだった。いま神はふたたびみ子の使命に印をおされた。神はイスラエルがこぼんだおかたをみとめられた。『この声があったのは、わたしのためではなく、あなたがたのためである』とイエスは言われた（ヨハネ 12:30）。それはイエスがメシヤであられることについての最高の証拠、すなわちイエスが事実を語られ、神のみ子であられるという天父のしるしであった。」（各時代の希望下巻 87, 88）

「彼らはかつて救い主に『わたしたちが見てあなたを信じるために、どんなしるしを行って下さいますか』とたずねたことがあった（ヨハネ 6:30）。無数のしるしが与えられたが、彼らは目をとじ、その心はかたくなであった。いま 天父がご自身で語られ、彼らはそれ以上のしるしを求めることができないのに、それでも彼らは信じようとしなかった。」（同上 89）

- b. 役人のある者たちの行為によって、彼らがキリストの使命が本物だと確信していた事実にもかかわらず、わたしたちはどのように警告を受けますか（ヨハネによる福音書 12:42, 43）。

「彼らは神の承認よりも人の称賛を好んだ。非難と恥をまぬかれるために彼らはキリストをこぼみ、さし出された永遠の生命をこぼんだ。それ以来幾世紀の間、これと同じことをしている者がどんなに多いことだろう。」（同上 89）

個人的な復習問題

金/7月18日

1. キリストの誕生の時に求めた人たちと今ギリシャ人たちは、何を意味していましたか。
2. ひと粒の麦の譬は、わたしの生涯に、どのように適用されますか。
3. 多くの人々が雷だと思うときに、わたしはどのように神のみ声を識別すべきですか。
4. ユダヤ人の役人たちの恐れと懸念を、わたしはどのように避けなければなりませんか。
5. 埋められる一粒の麦の二つの適用例を説明しなさい。

イエス、しもべのしもべ

暗唱聖句：「主はこれに答えて言われた、『偽善者たちよ、あなたがたはだれでも、安息日であっても、自分の牛やろばを家畜小屋から解いて、水を飲ませに引き出してやるではないか。』」（ヨハネによる福音書 13:15）

「キリストの一生は無私の奉仕の一生であった。『仕えられるためではなく、仕えるため』というのが、主のひとつひとつの行為の教えであった（マタイ 20:28）。」（各時代の希望下巻 115）

推奨文献： 各時代の希望下巻 115-129

1. 異邦人の概念

日/7月20日

- a. ルシファーに起源を発するどのような破壊的な考え方がユダヤ主義（キリストの弟子たちを含めて）に影響を与えていましたか。また今日わたしたちにも影響を与える可能性がありますか（ルカによる福音書 22:24, 25）。

「ルシファーは、神のご品性を望んだのではなくて、神の権力を望んだのであった。彼は 自分のために最高の地位を求めたが、彼の精神に動かされる者はだれでもみなこれと同じことをするのである。こうして離反、不一致、争いは避けられないものとなる。支配権は最も強い者のほうびとなる。サタン王国は暴力の王国であって、各人は互に相手を自分自身の昇進の道におけるじゃま物とみなすか、あるいは自分がもっと高い地位へのぼるための踏み石とみなすのである。」（各時代の希望中巻 212）

「この世の国では、地位は自分を高めることを意味した。民衆は支配階級の利益のために存在していると思われていた。勢力、富、教育は、指導者たちが大衆を自分のために使用するために彼らを支配する手段であった。上層階級が考え、決定し、楽しみ、支配し、下層階級は従い、仕えるのであった。ほかのすべてのことと同様に、宗教も権力の問題であった。民衆は目上の人から命じられる通りに信じ、実行するものと期待されていた。自分で考え、実行する人間としての人権はまったくくみとめられなかった。」（同上 369）

「霊的な誇り、命じたいという願望、誉と地位に対する野心的な切望によって、…教会は妨害され、その平安が犠牲にされるかもしれない。」（教会への証 5 巻 241）。

- a. より高い地位を求める野心的な切望とは全く対照的に、イエスはどの原則を打ち立てられましたか。またこの点に関して、どの模範をお与えになりましたか（ルカによる福音書 22:26, 27; ヨハネによる福音書 13:13-16）。

「キリストは、これと異なった原則の上にみ国を築いておられた。主は人々を権力の立場にではなく、奉仕の立場に召し、強い者を弱い者の欠点を負うために召された。権力、地位、才能、教育のある人は、それだけほかの人々に仕える一層大きな義務を負わされた。……

キリストの国には、横平な圧制もなければ、強制的なやり方もない。天使たちは、支配したり、尊敬を強要するためではなく、人類の向上に人々と協力するために、恵みの使者としてこの地上にくるのである。」（各時代の希望中巻 369、370）

- b. キリストが誤った人類を取り扱われた方法—わたしたち自身の生来の傾向の代わりとなるべき態度—を述べなさい（ピリピ人への手紙 2:3, 4）。

「わたしたちの品性において自然であるが、心地よいものではない特質とは、他人の欠点と失敗をするどく察知し、いつまでも覚えていることである。

B 兄弟は他の兄弟たちと一致しようとしな。彼の半信半疑は、一致の必要性を感じさせない。彼は彼らの思いが彼自身の思いよりも劣った型に投げ込まれてきたと感じており、彼らの意見や勧告に注意を払う価値のあるものとして受けることは、大変なへりくだりだと感じている。…彼は自分が賢明で経験もあるため、多くの人々にとって不可欠な警戒を自分は必要ないと感じている。彼は自分自身の能力に対して非常に高い意見をもっており、自分自身の偉業に大いに信頼しているため、彼自身どんな危急時にも対応できていると信じている。」（教会への証 3 巻 444, 445）

「世俗的な利己心の感化力、すなわちある人々のまわりに雲のようにかかり、他の人が呼吸する大気そのものを凍らせてしまう感化力は、魂の病気の原因となり、しばしば凍死させてしまう。」（同上 528）

「他人を自分よりも高く評価するように導く愛が兄弟間にあれば、自分自身のやり方や希望を手放すようになるであろう。」（福音宣伝者 447）

- a. 過越の祭の直前に、使徒たちには、なおどのような懸念事項がありましたか（マタイによる福音書 20:20-24; ルカによる福音書 22:24）。

「『自分たちの中でだれがいちばん偉いだろうかと行って、争論が彼らの間に、起った』（ルカ 22:24）。キリストの面前で行なわれたこの争いは主を悲しませ、傷つけた。弟子たちは、キリストがご自分の権力を主張されてダビデの位を占められるのだという好き勝手の考えに執着していた。そしてそれぞれに心の中で依然として王国の最高の地位にあこがれていた。彼らは、自分自身にまたお互いの上に勝手な評価をくだし、兄弟たちを自分よりもりつばな人としてみないで、自分自身をまず最高とした。ヤコブとヨハネがキリストの王座の右と左にすわりたいと願ったことが、ほかの弟子たちの憤激をひき起こしていた。二人の兄弟があつかましくも最高の地位を求めたことから、十人の弟子たちが怒って、離反の恐れがあった。自分たちはまちがって判断されている、自分たちの忠誠心や才能は認められていないのだと彼らは思った。ヤコブとヨハネに対して最も手きびしかつたのはユダだった。

弟子たちが晩さんのへやにはいつて行った時、彼らの心は憤然とした気持ちで一ぱいだった。ユダはキリストのすぐ左側に割りこんだ。ヨハネは右側にいた。もし最高の位置というものがあるなら、ユダはそれを占めようと決心していた。』（各時代の希望下巻 117, 118)

- b. 弟子たちは一見、以前のどの教えを忘れ、それが自分たちの間に不和を引き起こす引き金となっていましたか（マタイによる福音書 18:1-4）。

「不和の原因がほかにも起こっていた。食事の時には、しもべが客の足を洗うのが習慣だったので、この場合も足を洗う準備ができていた。足を洗うために水差しもたらいも手ぬぐいも用意されていた。ところがしもべがいなかったので、弟子たちがその役を果たす立場にあった。しかし弟子たちはそれぞれ誇りを傷つけられたという思いに負けて、だれもしもべの役割を果たすまいと決心していた。みんなは平然とした無関心さをよそおい、自分たちがすることがあることに気がつかないふりをしていた。沈黙することによって、彼らは自分を低くすることをこぼんだ。」（同上 118)

「他の人を裁き、非難するときに、わたしたちの言葉が神の耳にどのように響くか、わたしたちの利己的な考えが、このお方の御目にどのように映るかを考えよう。彼らは心と目的において、わたしたちよりも良いかもしれないのである。」（サイン・オブ・ザ・タイムズ 1885 年 2 月 19 日）

- a. 弟子たちが率先してやるのを忍耐強く待たれた後、イエスはついに何をなさいましたか (ヨハネによる福音書 13:3-5)。

「〔ヨハネ 13:5 引用。〕この行為が弟子たちの目を開いた。彼らの心は激しい恥ずかしさと不面目な思いに満たされた。彼らは無言の譴責を理解し、自分たちの姿をまったく新しい光のうちに見た。

このようにキリストは、弟子たちに対する愛をあらわされた。彼らの利己的な精神をごらんになって、主の心は悲しみに満たされたが、主は彼らの問題について議論されなかった。その代わりに、主は、彼らが決して忘れることのできない模範をお与えになった。」(各時代の希望下巻 119)

- b. ペテロは自分の番になったとき、どのように反応しましたか (ヨハネによる福音書 13:6-8 (上句))。

「ペテロは、神のみ子と信じている主が、しもべの役割を果たしておられるのを見るにしのびなかった。彼は全心全霊でこの屈辱感と戦った。キリストがこのためにこられたのであることに彼は気がつかなかった。」(同上 121)

- c. ユダはサタンの誘惑にどれほど深く屈しましたか—また、キリストはご自分がこれに気づいておられることを、どのようにお示しになりましたか (ヨハネによる福音書 13:2, 10, 11)。

「過越の前に、ユダは祭司たち、律法学者たちともう一度出会って、イエスを彼らの手に引き渡す契約を取りきめていた。それなのに彼は、そのあとで、何の悪いこともしなかったかのように弟子たちの中にまじって過越の食事を用意する働きに関心を示していた。弟子たちはユダの意図について何も知らなかった。彼の秘密を見ぬくことがおできになったのはイエスだけだった。しかし主はユダを暴露されなかった。イエスは彼の魂を求めておられた。主は、滅ぶべき都エルサレムについて泣かれたときこの都に対して感じられたような重荷を、ユダに対して感じておられた。主は、どうしておまえをあきらめることができようと、心の中で泣いておられた。この迫る愛の力をユダは感じた。救い主がご自分の手で彼のよごれた足を洗い、手ぬぐいでふかれたとき、ユダの心はいまこの場で自分の罪を告白してしまおうという衝動に何度もかられた。しかし彼はへりくだろうとしなかった。」(同上 120)

- a. この行為をもって、イエスは本当には何をしたいと望んでおられましたか（ヨハネによる福音書 13:8（下句））。

「主の行為によって、この謙遜式は、聖別された儀式となった。それは、謙遜と奉仕についてのキリストの教訓をいつも心におぼえているように、弟子たちによって守られるのであった。

この儀式は、聖さん式のためにキリストがお定めになった準備である。高慢、不和、権力争いが宿っているあいだは、心はキリストとのまじわりにはいることができない。われわれは、キリストのからだと血との聖さんを受ける用意ができていない。そこでイエスは、ご自分の謙遜を記念するものを最初を守るようにお定めになったのである。」（各時代の希望下巻 126, 127）

- b. イエスは洗足式の後で、どの意義深い言葉を宣言なさいましたか—またこのことが、この儀式を守る間、わたしたちに何を思い出させるべきですか（ヨハネによる福音書 13:12-17）。

「わたしたちは過ちを犯しやすく、数多く過ちを犯してきた。主に悔い改めと告白をもって帰ろう。主の家に儀式に参加するために集まるとき、自分たちの力の及ぶ限り、すべての過ちを正そう。兄弟の前にひざまずいて、その足を洗う時に、自問しよう、『わたしは心の内にこの兄弟から離れさせるような何かがあるだろうか。わたしは疎遠になるようなことを言ったり、したりしただろうか。』もしそうであれば、自分の罪を心から告白して取り除きなさい。こうして心は心にくっついて固まり、神の祝福が明らかにされるのである。」（キリストを映して 283）

個人的な復習問題

金/7月25日

1. 天の態度と地上の態度の著しい相違を説明しなさい。
2. もしわたしが自分の兄弟の足を洗うことを拒むなら、実際には何を拒んでいることになりますか。
3. ユダの内なる経験は、どのようにわたしに対する警告となりますか。
4. キリストが弟子たちの態度をどのように変化させたか説明しなさい。
5. 洗足式の目的と意義は何ですか。

第一安息日献金 世界総会教育支部

教育は、聖化と同様に、生涯にわたる仕事です。幼少期から永遠に至るまで、教育は常に人間の経験の本質的な一部であり続けるでしょう。この安息日、教会にとって不可欠なこの教育の範囲を広げるために、皆様のご支援をお願いいたします。



「真の弟子はみな伝道者として神の国に生れ」各時代の希望上

卷 234)「努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩くときも、寝るときも、起きる時も、これについて語らなければならない。」(申命記 6:7)。そして勝利が確保され、罪と罪人がいなくなったとき、教育の活動は継続されるのです。

今、わたしたちの教会は、かつてないほど人類家族のあらゆる年齢層に適切な教育基盤を確立するため、教材を提供する準備を整えなければなりません。

残念なことに、ほとんどの教育機関は基礎教育から離れ、世俗主義の教化の場と化しています。学校教育が子供たちにどれほど大きな影響を与えるかを痛感した多くの人々が、神の誉れと栄光のために子供たちを教育するための教材を求めています。そこで、世界総会教育部はまさにこの目的に焦点を当てた包括的なカリキュラムを作成しています。教育関係者や様々な部署と協力し、カリキュラムの準備は順調に進んでいます。

しかし、このプロジェクトは手元資金をはるかに超えています。教材の作成、翻訳、そして貧困地域の人々にも入手可能にするために、皆様の惜しみないご寄付が必要です。皆様のご支援により、最高品質の教材を準備することができ、それを利用する生徒たちが「この世で役立つ者となり、永遠にわたって神に仕える資格を得る」ことができるのです。(両親、教師、生徒への勧告 495)

このプロジェクトは規模が大きいことは承知していますが、その価値は十分にあります。皆様のご支援をいただき、数学から言語、社会科学に至るまで、あらゆる分野の教材を制作し、幼い子どもたちでさえも、可能な限り効果的に福音のメッセージを世界中に伝えることができるよう支援します。

あらかじめ感謝申し上げます。贈り物と贈り主を神が祝福されますように。

世界総会教育支部

道であり、真理であり、命

暗唱聖句：「イエスは彼に言われた、『わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』」（ヨハネによる福音書 14:6）

「この地上は、不法のゆえに、天という大陸から切り落とされた。人とその造り主の間の通信はやんだ。しかし、人は御父の家に帰ることができるように道が開かれた。」（今日のわたしの生涯 260）

推奨文献： 教会への証 8 巻 265–269

1. イエスは御父にご自分の帰還をお告げになる 日/7月27日

- a. イエスは、地上でのご自分の使命の終了を、どの言葉でお告げになりましたか（ヨハネによる福音書 13:33）。その他にどのようなメッセージをお伝えになりましたか（ヨハネによる福音書 13:34, 35）。

「キリストの弟子たちへの最後の戒めの一つは、『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい』ということである。わたしたちは、この戒めに従っているであろうか、それとも、世知にたけたクリスチャンらしくない性質をあらわしているであろうか。もし何かの点で、他人の心を痛め、傷つけたならば、その過失を告白して、和解を求めなければならない。これは、信仰をもって神の祝福を求めつつ神のみ前に出るためにしなければならない準備である。」（キリストの実物教訓 121）

- b. ペテロとイエスの間で、主の出発に関して、どのような会話がなされましたか（ヨハネによる福音書 13:36–38）。

「今日多くの人が、ペテロが自分の主を否定することはないと自信をもって宣言したときの立場を取っている。そしてその自信のゆえに、彼らはたやすくサタンの方策に陥るえじきなのである。自分の弱さを自覚している者は、自己よりも高い力に信頼する。そして彼らが神を見ている間は、サタンは彼らに対抗する力がない。しかし、自己に信頼する人々はたやすく打ち負かされる。」（わたしたちの高い召し 307）

- a. まだ二階の広間にいる間に、イエスをご自分の弟子たちに、どのような慰めとなる言葉を語り、どのような約束をなさいましたか（ヨハネによる福音書 14:1, 2）。

「〔ヨハネ 14:1-4 引用〕。あなたがたのためにわたしは世に来了。わたしはあなたがたのために働いている。わたしが去っても、わたしはあなたがたのために熱心に働くのである。わたしは、あなたがたが信じるようにわたし自身をあなたがたにあらわすために世に来了。わたしは、あなたがたのために天父と協力するためにみもとに行くのである。キリストが去られる目的は、弟子たちが恐れていることとは反対であった。それは最後の別離を意味しなかった。主はもう一度来て、彼らをみもとに受け入れるように、彼らのために場所を用意しようとしておられた。主が彼らのために住居を作っておられる間に、彼らは天の型にかたどって品性を築くのであった。」（各時代の希望下巻 144, 145）

- b. キリストはご自分のメッセージに、どの重要なできごとを含みましたか（ヨハネによる福音書 14:3）。

「キリストの再臨のみ約束は、弟子たちの心にいつも鮮明に刻まれていなければならなかった。彼らが昇天されるのを見ていたそのイエスは、この地上で主の働きに献身する人々をみもとに連れて行くために再び来られるのである。『見よ、わたしは終りまで、いつもあなたがたと共にいる』と彼らに言われた同じ声が、彼らを天のみ国で、み前に迎えてくださるのである。」（患難から栄光へ上巻 27）

- c. トマスは、道について、イエスにどのような質問をしましたか。またどのような答えを得ましたか（ヨハネによる福音書 14:5, 6）。

「天への道はたくさんあるのではない。それぞれが自分自身の道を選ぶというわけにいかない。キリストは、『わたしは 道であり …… だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない』と言われる（ヨハネ 14:6）。女のすえがへびのかしらを砕くということがエデンで宣告された時に最初の福音が説かれて以来、キリストは道、真理、生命としてかかげられてきた。アダムが生存していたときに、またアベルがあがない主の血を象徴する殺された小羊の血を神にささげたときに、キリストは道であった。キリストは父祖たちと預言者たちが救われる道であった。キリストはわれわれが神に近づくことのできる唯一の道である。」（各時代の希望下巻 145）

- a. イエスはどのように御父とご自分を一つとなさいましたか。またこれはわたしたちとどのように関係していますか (ヨハネによる福音書 14:7)。

「キリストは神を、憐れみ、優しさ、同情に満ちた愛の神として世に表すために来られた。サタンが神格の御座のまわりを覆い隠そうと努力してきた濃い闇は、世の贖い主によって一掃された。そして御父はふたたび人に対して命の光としてあらわれたのである。」(教会への証 5 巻 738, 739)

- b. ピリポはイエスにどんな嘆願をしましたか。また主の答えの意味は、何でしたが(ヨハネによる福音書 14:8-11)。

「ピリポがイエスに『主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さい、わたしたちは満足します』という要望を持ってきたとき、…キリストはご自身が御父の代表者として世につかわされたことを宣言された。そのご品性の高潔さのうちに、その憐れみと優しい同情のうちに、その愛といつくしみ深さのうちに、このお方はわたしたちの前に、神の完全さの例証、見えない神のかたちとして立っておられる。」(同上 5 巻 739)

「キリストは御父を見ることができるのはただ信仰によるのだという事実を強調して彼らに印象づけられた。どんな人間も、神を外のかたちで見ることはいできない。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 5 巻 1141, 1142)

「キリストは人となられたとき神でなくなられたのではなかった。ご自分を低くされて人となられたが、神の位はやはりキリストご自身のものであった。キリストだけが人類に天父をあらわすことがおできになったのであるが、弟子たちはこのあらわれを三年以上にわたって目に見る特権を与えられていた。……

彼らの信仰は、キリストのみわざに示されている証拠におかれるとき安全である。それはだれも自分でしたこともなければ、することもできないみわざである。キリストの働きは彼の神性を証拠だてた。キリストを通して、天父があらわされた。

弟子たちが父とみ子との間のこの重大な関係を信じるならば、滅びつつある世を救うためのキリストの苦難と死を見るとき、彼らの信仰は失われないのであった。キリストは彼らをその低い信仰状態から、キリストがどんなおかたであるかということ、すなわちキリストが人の肉体をとられた神であるということに彼らが真に気づいたときに受け入れるような経験へみちびこうとしておられた。」(各時代の希望下巻 146)

- a. イエスはご自分の弟子たちに、どのような大きな可能性を提供しておられましたか (ヨハネによる福音書 14:12)。

「救い主は、何のためにご自分の神性が人性と結合しているかを弟子たちが理解するように熱望された。キリストは、神の栄光を示し、その回復力によって人が高められるようにこの世にこられた。神はキリストのうちにあらわされたが、それはキリストを通して神が人々のうちにあらわされるためであった。イエスは、人がイエスに対する信仰を通して持つことのできないような特性をあらわしたり、能力を働かせたりされなかった。キリストの完全な人性は、キリストに従うすべての者が、キリストと同じように神に服従するときに所有することのできるものである。

『そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである』(ヨハネ 14:12)。このことによって、キリストは、弟子たちのわざがキリストのみわざよりもっと崇高な性質のものになると言われたのではなく、もっと広い範囲のものになると言われたのである。主は奇跡を行なうことだけを言われたのではなく、聖霊の働きのもとに起こるすべてのことを言われたのである。

主の昇天後、弟子たちは、主のみ約束の成就に気がついた。キリストの十字架と復活と昇天の場面は彼らにとって生きた現実であった。彼らは預言が文字通りに成就したことを知った。彼らは聖書を調べ、かつてないほどの信仰と確信をもってその教えを受け入れた。彼らは天来の教師イエスが、かつてご自分について言われた通りのおかたであったことを知った。彼らが自分たちの経験について語り、神の愛をあがめたとき、人々の心はとけ、やわらげられ、多くの人たちがイエスを信じた。」(各時代の希望下巻 147, 148)。

- b. イエスは、すべての時代において、希望をもたらすために、どのような確証を与えておられますか (ヨハネによる福音書 14:13, 14)。

「その時にはまだ弟子たちは救い主の無限の方法と能力について知っていなかった。主は彼らに『今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった』と言われた(ヨハネ 16:24)。彼らの成功の秘訣は、主のみ名によって力と恵みを求めることにあることを主は説明された。主は、彼らのために願いをするために父の前に出られるのであった。謙遜な嘆願者の祈りを、主は、その人に代って、ご自身の願いとしてささげられる。真心からの祈りはどれも天に聞かれる。それはなめらかなことばではないかも知れないが、その中に心がこもっているとき、イエスが奉仕しておられる聖所へのぼって行き、イエスはそれをぎごちないどもることばが一つもなく、ご自身の完全という香で美しくかぐわしいものとして、父にささげてくださるのである。」(同上 148, 149)

- a. イエスがご自分の御父とのつながりを説明されたときに、弟子たちがイエスと持っていた特別なひとときを述べなさい(ヨハネによる福音書 14:8-10)。またわたしたちも、どのように天とこのような交わりを楽しむことができますか(雅歌 2:3, 4)。

「キリストが〔ヨハネ 14:8-10 にある〕これらの言葉を語っておられたとき、神の栄光がこのお方のみ顔を照らしており、そこにいたすべての人は、このお方の言葉にうっとりとして注意を払って聞いているときに、神聖な畏敬の念を感じた。彼らは自分たちの心をもっと決定的にこのお方にひきつけられるのを感じた。そして彼らがより大きな愛をもってキリストへひきつけられたとき、互いにひきつけられた。彼らは天が自分たちに非常に近いことを感じた。彼らが聞いていた言葉は、天父から彼らに語られたメッセージであった。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 5 巻 1142)

「不安で意気消沈している自称クリスチャンや、あまりにも活動が忙しくて神の約束のうちに静かに憩う時間を見出すことができない人、あたかも平安や静けさを持つ余裕は持てないかのような人々が多くいる。そのようなすべての人に対して、キリストの招きは、『わたしのもとへ来なさい。…あなたがたを休ませてあげよう』である。…

ほこりまみれの熱した人生の街路から向きを変えて、キリストの愛の陰に憩おう。ここでわたしたちは再び戦いのための力を得る。ここでわたしたちはいかに苦勞と心配を減じるか、そしていかに神の賛美を語り、歌うことを学ぶ。疲れて重荷を負っている人はキリストから静かな信頼という教訓を学ぼう。彼らはこのお方の平安と休息を持つ者になりたいのであれば、このお方の陰で座らなければならない。」(教会への証 7 巻 69, 70)

「主の民が柔和とやさしさに満ちているとき、自分たちの上に翻る旗は愛であることを悟るようになる。そしてこのお方の実は、彼らの味覚に甘いのである。彼らは上なる天国に準備するため、下の地上に天国を作る。」(同上 131)

個人的な復習問題

金/8月1日

1. ペテロが沈んだ落とし穴を、わたしはどのように避けることができますか。
2. わたしのための住まいというキリストの約束に照らして、地上におけるわたしの義務は何ですか。
3. わたしはどのようにイエスの働きを成し遂げることができるようになりますか。
4. イエスはご自分の弟子たちがご自分の出発について聞かれたとき、どのように慰められましたか。
5. イエスが「もっと大きいわざ」がなされると言われたのは、どういう意味でしたか。また、どのようにですか。

聖霊の約束

暗唱聖句：「わたしたちはこれらの事の証人である。神がご自身に従う者に賜わった聖霊もまた、その証人である」。(使徒行伝 5:32)

「聖霊の約束は一時代や一民族に限られたものではない。キリストは、み霊の聖なる感化は世の終わりにいたるまで、キリストに従う者の上にあると宣言なさった。」(患難から栄光へ上巻 45)

推奨文献： 教会への証 8 巻 19-23;
患難から栄光へ上巻 43-53

1. 従順—信仰の実

日/8月3日

- a. 信仰によってイエスを受け入れることについて、クリスチャンは自分の心の内に何を受け入れるのですか (ローマ人への手紙 5:1-5)。
- b. キリストの愛は信徒の生活に、どのように表されますか (ヨハネによる福音書 14:15, 21; ヨハネの第一の手紙 2:3)。

「主は人を罪のうちにあって救われるのではなく、罪から救われるのである。そして、主を愛する者たちは、従うことによって彼らの愛を示すのである。

すべての真の服従は心から生れる。キリストにとってはそれは心の働きであった。もしわれわれが承知するなら、キリストはわれわれの思いやこころざしと一体となり、われわれの心と思いとを一つにしてご自分のみこころに 一致させてくださるので、キリストに従うときに、われわれは自分自身の衝動を実行しているにすぎない。意志は洗練され、きよめられて、主のご用をなすことに最高のよろこびをみいだす。神を知ることはわれわれの特権であるが、このように神を知るときに、われわれの生活は変わることはない服従の生活となる。キリストのご品性の真価を認めることによって、神とまじわることによって、罪はわれわれにとって憎むべきものとなる。」(各時代の希望下巻 150)

- a. イエスは弟子たちを慰めるために、だれを送ると約束なさいましたか(ヨハネによる福音書 14:16-18)。

「あがないの働きの最初から、みたまは人々の心に働きかけておられた。しかしキリストが世におられる間は、弟子たちはほかの助け手を望まなかった。キリストの存在が取り去られてはじめて彼らはみたまの必要を感じるようになり、そのときみたまがこられるのであった。」(各時代の希望下巻 152, 153)

- b. キリストは、どのように弟子たちの心の中に「生きる」ようになるのですか(ヨハネによる福音書 14:19-23)。

「聖霊はキリストの代表者であるが、人間の個性を備えておられないので、これに拘束されない。キリストは、人性の制約を受けておられたので、どこへでもみずから行かれるわけにいかなかった。だから、キリストが父のみもとに行かれて、地上におけるご自分の後継者として聖霊をお送りになることは彼らの利益であった。そうすれば、場所やキリストとの個人的接触などによる特典はだれにもないのであった。みたまによって、救い主はだれにでも近づかれるのであった。この意味において、主は、天にのぼられなかったとした場合よりも一層近く彼らのそばにおられるのであった。……

イエスは弟子たちの将来を見通された。ある者は処刑台に立たされ、ある者は十字架につけられ、ある者は海のさびしい岩の間に島流しにされ、またほかの者たちは迫害と死に会うことを、イエスはご存じであった。主はどの試みにもご自分が一緒におられるという約束をもって弟子たちを励まされた。この約束は少しも効力を失っていない。主のために牢獄に横たわり、あるいはさびしい島に追放されている忠実なしもべたちのことを、主は全部知っておられる。主は自らそこにいて彼らを慰められる。真理のために信者が不正な裁判の座に立つとき、キリストは彼のかたわらに立っておられる。彼の上に浴びせられるすべての非難はキリストの上に落ちかかるのである。キリストがその弟子の身代りとなってふたたび有罪の宣告を受けられるのである。人が牢獄の壁の中に閉じこめられるとき、キリストはご自分の愛をもって心をよこばせてくださる。……

どんな時にも、どんな場所でも、どんな悲しみにも、どんな苦しみにも、前途が暗く将来が困難に見えて無力と孤独を感じるときにも、信仰の祈りに答えて、助け主が送られる。この世のすべての友から離れるような事情が起こるかもしれない。しかしどんな事情もどんな距離もわれわれを天の助け主から離れさせることはできない。どこにいようと、どこへ行こうとも、主はいつもわれわれの右にあって、力づけ、助け、ささえ、励まされる。」(同上 153, 154)

- a. 慰め主は弟子たちの記憶と理解利欲に、どのような感化を与えることになりましたか (ヨハネによる福音書 14:26)。

「〔弟子たちは〕キリストが示された聖句の価値を理解しなかった。キリストの教えの多くは彼らにほとんど益を与えていないように思われた。イエスは、彼らがイエスのことばの真の意味をとらえていないことをお知りになった。主は、聖霊がそうしたことばを彼らの心に思い出させてくださるということを、あわれみ深くも約束された。また主は、弟子たちが理解できない多くのことをこれまで言わないでおかれた。そうしたこともみたまによって彼らに教えられるのであった。みたまは彼らが天の事物を理解するように彼らのさとりを開いてくださるのであった。『真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう』(ヨハネ 16:13)。」(各時代の希望下巻 155、156)

- b. その他、慰め主はキリストに真に従う人のために、何をするのですか (ヨハネによる福音書 16:12-14)。

「もしあなたに理解できない真理の点、同意できない点があれば、調べ、聖句を聖句と比較し、真理の柄を神のみ言葉の鉱脈に深く差し込みなさい。あなたは自分自身と自分の意見を神の祭壇の上に置き、自分の先入観を捨てて、天の御霊にあらゆる真理に導いていただきなさい。」(レケッド・メッセージ 1 巻 412、413)

「わたしたちはみ言葉を与えて下さった御霊の助けがなければ、神聖な啓示を正しく理解することも評価することもできない。」(教会への証 5 巻 241)

「試みがしばしば抵抗できないもののように見えるのは、祈りと聖書研究を怠っているために、試みられている者が神のみ約束をすぐに思いだすことができず、聖書という武器をもってサタンに対抗することができないからである。しかし天使たちは、神の事柄を喜んで学ぼうとする人々のまわりにおいて、緊急の場合には必要な真理を思い起こさせる。こうして、『敵が洪水のように押し寄せるときに、主の霊はそれに向かって旗をあげられる』(イザヤ書 59:19 英語訳)。

イエスは、『助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起こさせるであろう』と弟子たちに約束された (ヨハネ 14:26)。しかし、危機の時に、神のみ霊がわれわれにキリストの教えを思い起こさせてくださるためには、それをあらかじめ心の中にたくわえておかねばならない。」(各時代の争闘下巻 367)

- a. イエスはご自分に忠実に従う人々に、どのようなすばらしい約束—逆境の時に非常に助けとなる約束—を与えてくださいましたか（ヨハネによる福音書 14:27-29）。

「弟子たちへの談話の中で、イエスは、ご自身の苦難と死を暗示する悲しいことばはすこしも言われなかった。彼らに対するキリストの最後の遺産は、平安という遺産であつた。」（各時代の希望下巻 158）

「〔ヨハネ 14:27 引用〕。『わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな』。この平安は世と一致することによってくる平安ではない。キリストは悪と妥協することによって平安を買いとられたことはない。キリストが弟子たちに残されたのは、うわべの平安ではなく、心の平安であり、反目や争いの中にも絶えずキリストの証人と共にとどまるものであつた。」（患難から栄光へ上巻 86）

「真理の歴史は常に善悪間の闘争の記録であつた。福音の宣伝は、この世で反対と危険と損失と受難に直面しながらも常に先へと伝えられてきた。

過去において、キリストのために迫害を受けてきた人々が持っていた力は何であつたのか。それは、神との一致、聖霊との一致、キリストとの一致であつた。多くの者は、そしりと迫害によって、地上の友から引き離されたが、キリストの愛からは引き離されていなかった。魂が、あらしに悩まされ、真理のためにそしりを受ける時ほど、救い主の愛を深く受ける時はない。『わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう』とキリストは言われた（ヨハネ 14:21）。信者が真理のためにこの地上の法廷に立つ時、キリストは彼のそばにお立ちになる。彼が牢獄の中に閉じこめられる時、キリストは彼にあらわれてその愛によって彼の心を励まされる。」（同上 87）

- b. イエスの使命の終わりに、このお方はご自身について何を断言することがおできになりましたか（ヨハネによる福音書 14:30）。

「サタンは人間の心の中に何らかの足場を見つける。何らかの罪深い願望、すなわち彼の誘惑がその力を発揮できる手段となるものを心の中にいだいている。しかし、キリストはご自身について、『この世の君が来るからである。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない』と宣言された。誘惑の嵐がこのお方の上に炸裂したが、神への忠誠からこのお方をそらせることはできなかった。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 927）

- a. どの手段を通してのみ、わたしたちは神との平和を持つことができますか（ヨハネによる福音書 16:33; エペソ人への手紙 2:13, 14）。

「自分自身の力では、われわれの墮落した性質のやかましい要求をこぼむことができない。この道から、サタンは試みをもってやってくる。キリストは敵が、遺伝的な弱点に乗じ、神に信頼をおいていない人々をいつわりのほめかしによって、わなにおとし入れるためにどの人のところにもやってくることをご存じであった。そこで主は、人の通らねばならない道を自らお通りになって、われわれが勝利する道をお備えになった。サタンとの戦いにわれわれが不利な立場に立つことは主のみこころではない。主はわれわれが蛇の攻撃におびえたり落胆したりすることを望まれない。『勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている』と主は言われる（ヨハネ 16:33）。」（各時代の希望上巻 134）

- b. 神との平和を望む信徒には、何が要求されていますか（詩篇 119:165）。そのような信徒の経験は、どのようなものとなりますか（ヨハネの第一の手紙 3:22）。

「主はほかの人にお教えるのと同じようによろこんでわれわれの義務をお教えるになる。もし信仰をもって主のみもとに行くならば、主はご自分の奥義をわれわれに個人的に語ってくださる。神がエノクにそうされたように、われわれとまじわるために近づかれるときに、われわれの心はしばしばうちに燃える。神をよこばせないようなことは何もしないと決心する者は、自分の問題を神の前に持ち出したあとで、とるべき道を知るであろう。そして彼らは、知恵ばかりでなくまた力を受けるのである。服従と奉仕の力は、キリストが約束されたように彼らにさづけられる。」（各時代の希望下巻 150、152）

個人的な復習問題

金/8月8日

1. わたしはキリストの御名によって本当に祈っていることをどのように確認できますか。
2. キリストの平安は、世が提供する平安よりも、なぜわたしにもっと訴えるべきなのですか。
3. わたしはどのようにしたら、もっとキリストの平安を経験できますか。
4. 神との平和を得ている信徒の生活を述べなさい。
5. 聖霊の働きを要約しなさい。

イエス、まことのぶどうの木

暗唱聖句：「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」（ヨハネによる福音書 15：5 下句）

「生きた信仰によるキリストとの一致は、永続的なものである。それ以外の結合は消滅しなければならない。…この結合はわたしたちに何らかの代価を要求する。それは、誇り高い存在が入るべき完全な依存という結合である。」（教会への証 5 巻 231）

推奨文献： 教会への証 4 巻 353-355;
教会への証 1 巻 248, 249

1. 弱く依存している

日/8月10日

- a. イエスはご自身を何と比較されましたか。それはなぜですか（ヨハネによる福音書 15:1（上句））。

「イエスはご自分を象徴されるのに、優美なしゅろの木や高い杉の木やたくましかしの木を選ばないで、巻きひげのまつわりついたぶどうの木を例にとられる。しゅろの木も杉の木もかしの木も一本立ちである。それはささえを必要としない。しかしぶどうの木はたなにからみついて、天の方へのぼって行く。そのように、人性をとられたキリストは神の力にたよられた。『わたしは、自分からは何事もすることができない』とイエスは言明された（ヨハネ 5:30）。」（各時代の希望下巻 162）

- b. イエスはぶどうの木を通して、その他どのような教訓を描写しようとなさいましたか（ヨハネによる福音書 15:1-3.）。

「ユダヤ人はいつもぶどうの木を植物の中で最も高貴なもの、また力があり、すぐれていて、実をむすぶすべてのものの型とみなしていた。イスラエルは神が約束の地に植えられたぶどうの木として象徴されていた。ユダヤ人は、自分たちがイスラエルとつながっていることに救いの望みを置いていた。しかしイエスは、わたしがまことのぶどうの木であると言われる。イスラエルとつながっていることによって神の生命にあずかる者、神の約束を継ぐ者となれると思ってはならない。わたしを通してのみ霊的生命が受けられるのだ。」（各時代の希望下巻 162）

- a. 実り豊かなクリスチャン生涯のためには、何が必須条件ですか（ヨハネによる福音書 15:4）。

「枝とぶどうの木とのつながりは、あなたがたとわたしとの間の関係を表わしていると、キリストは言われた。若枝が生きたぶどうの木につながれて、せんいはせんいと、木目は木目とつながって、木の幹へと生長するのである。ぶどうの木の生命は枝の生命となる。そのように、罪とがのうちに死んだも同様の魂は、キリストにつながることによって生命を受けるのである。キリストを自分自身の救い主として信じる信仰によって、この結合がなされる。罪人は自分の弱さをキリストの強さに、自分のむなしさをキリストの充実に、自分のもろさをキリストの耐久力に結合させる。そのとき彼は、キリストの心を持つのである。キリストの人性はわれわれの人性に触れ、われわれの人性は神性に触れたのである。こうして聖霊の働きを通して、人は神の性質にあずかる者となる。彼は愛するみ子のうちに受け入れられる。」（各時代の希望下巻 163）

- b. キリストから分離した人には何が起こりますか（ヨハネによる福音書 15:6）。

「キリストとのこのつながりは、一度できたら、持続しなければならない。....これは気まぐれな接触でもなければ、ついたり離れたりする関係でもない。枝は生きたぶどうの木の一部となるのである。根から枝への生命と力と実りの伝達はさまたげられることなく、たえまなく行なわれる。ぶどうの木から離れると、枝は生きることができない。あなたがたはわたしを離れては生きることができないと、イエスは言われた。あなたがたがわたしから受けた生命は、たえないまじわりによってのみ持続されるのだ。わたしなしでは、あなたがたは一つの罪にうち勝つことも、一つの試みに抵抗することもできない。」（同上 163, 164）

- c. 真の弟子であることは、どのように表れますか（ヨハネによる福音書 15:4; 8:31; 13:35）。

「人が強制や利己心によってではなく、愛によってむすばれるとき、彼らは人間の力にまさる力が働いていることを示すのである。この一致があるとき、それは神のみかたちが人のうちに回復され、新しい生命の原則がうえつけられた証拠である。それはまた超自然的な悪の力に抵抗するのに神の性質には力があるということ、神の恵みは生れつきの心に固有の利己心を征服するということを示している。」（同上 167, 168）

- a. 何が、わたしたちが絶えずキリストとつながっている確かな結果ですか（ヨハネによる福音書 15:5, 8）。

「根は枝を通して小枝の先端にまで栄養を送る。同様にキリストは、霊的な力の流れを信者のひとりびとりに送られる。魂がキリストにつながっているかぎり、しばらく枯れたりする危険はない。....

信仰によって神のみ子を常食とするとき、みたまの実はいわれわれの生活の中に見られ、一つとして失われることはない。」（各時代の希望下巻 164, 165）

「わたしたちが必要としているのはイエスである。その光、その命、その霊が、たえずわたしたちのものとならなければならない。わたしたちは毎時間、このお方を必要としている。そして太陽が地を照らし、世界を光で満たすように、義の太陽が思いと心の部屋に差し込み、わたしたちを主にあってことごとく光として下さるように、朝祈るべきである。わたしたちは一瞬でもこのお方のご臨在がなければやれない。敵はわたしたちが自分の主なしに取りかかるときを知っており、その場において、わたしたちの思いを邪推で満たそうと待ち構えている。こうしてわたしたちが自分の堅固さから転落するためである。しかし、主の願いは、一瞬一瞬、わたしたちがご自分につながり、こうしてご自分にあってわたしたちが完全になることである。」（今日のわたしの生涯 15）

「キリストを個人的な救い主として受け入れる者はみな、福音の真理とその救いの力の立証をしなければならない。神がお命じになることは、必ずそれをなしとげることができるように備えがされているのである。神の要求なさることは、キリストの恵みによってことごとくなしとげることができる。天の富が全部、神の民を通してあらわされるべきである。」（キリストの実物教訓 280）

- b. どの条件に基づいて、キリストの愛に宿ることができますか（ヨハネによる福音書 15:9, 10; ヨハネの第一の手紙 2:5）。

「神は、あなたを通して、ご自身の品性の聖潔、慈愛、あわれみをあらわそうと望まれる。しかし救い主は、弟子たちに、実を結ぶために骨折るようには命じられない。主はわたしにつながっていないさいと彼らに言われる。」（各時代の希望下巻 166）

「み摂理のうちに神がお働きになるのは、人々を試みて、人々に品性を発達させる機会を与えることである。それによって神は、彼らが神の命令に従うかどうかをためられるのである。善行によって神の愛を買い取ることはできないが、それはわたしたちが愛を持っていることをあらわすのである。」（キリストの実物教訓 260, 261）

- a. イエスはご自分の言葉について、ご自身と信徒をつなぐ輪として、何と言われましたか(ヨハネによる福音書 15:3, 7; 6:63)。

「キリストがご自分に従う者たちの中に住まれるのはみことばを通してである。これは、キリストの肉を食べ、その血を飲むことによってあらわされているのと同じに生命のつながりである。キリストのみことばは霊であり生命である。みことばを受けることによって、あなたはぶどうの木であられるキリストの生命を受けるのである。あなたは、『神の口から出る一つ一つの言で生きるものである』(マタイ 4:4)。あなたのうちにあるキリストの生命は、キリストのうちにあり、同じ実を生ずる。キリストのうちに生き、キリストに固着し、キリストにささえられ、キリストから栄養分をとるときに、キリストと同じ実を結ぶのである。」(各時代の希望下巻 166)

- b. わたしたちが神のみ言葉に服するとき、どのような霊的な手術がわたしたちの内なる動機や態度を変化させるかを述べなさい(ヘブル人への手紙 4:12; 詩篇 51:10)。

「神の僕たちは鋭い証を担わなければならない。その証が、生来の心を切り、品性を発達させるのである。」(教会への証 1巻 249)

「聖書は…毎日魂に語りかける神のみ声である。…聖霊の働きは、暗くなった理解力を啓発すること、利己的で石のような心を溶かすこと、反逆的な不法者を征服し、その人を世の堕落した感化力から救うことである。ご自分の弟子たちのためのキリストの祈りは、『彼らをあなたの真理を通して聖化してください。あなたのみ言葉は真理であります』であった。御霊の剣は神のみ言葉であり、罪人の心を刺し通し、それを切り裂くのである。」(同上 4巻 441)

「どんな人でも、聖霊に服従するならば、新しい生命の原則が植えつけられ、失われた神のみかたが人類の中に回復されるのである。」(キリストの実物教訓 71)

「〔神の飢えかわいているご自分の民が、〕キリストのみことばを食べるときに、彼らは、それが霊でありいのちであることを知る。みことばは、生れながらの世俗的な性質を滅ぼし、イエス・キリストのうちにあり新しいいのちを与える。聖霊は、助け主として魂にくだる。人を生れ変らせる神の恵みの力によって、神のみかたが、弟子のうちに再現され、彼は新しい人間となる。愛が憎しみに入れ代り、心は神のみかたにかたどられる。『神の口から出る一つ一つの言で生きる』というのは、このことである(マタイ 4:4)。」(各時代の希望中巻 141)

5. 焼かれるのか、もしくは、剪定されるのか？ 木/8月14日

- a. キリストはキリストのうちにいると主張しながら、実を結ばない信徒を、どうされますか (ヨハネ 15:2 (上句))。

「外面的にはぶどうの木につぎ木されていながら、生命のつながりがないかもしれない。すると成長もなければ、実りもない。同じように、信仰によってキリストとほんとうにつながっていないで、表面的な関係しかないかもしれない。信仰の告白によって人は教会に加わるが、その品性と行為は彼らがキリストにつながっているかどうかを示している。もし実をむすばなければ、彼らは偽りの枝である。彼らがキリストから離れていることは、枯れた枝によって表わされているのとまったく同じ滅亡を意味する。」(各時代の希望下巻 165)

- b. イエスはご自分につながっている枝に何をなさいますか (ヨハネによる福音書 15:2 (下句))。

「イエスは厳粛にやさしく農夫の目的を説明された。刈り込みは苦痛を生ずるが、ナイフを使われるのは天父である。天父は気まぐれな手や無頓着な心で働かれない。地面をはって行く枝がある。そうした枝は、巻きひげがからみついている地面のささえから切り離さねばならない。それは天へ向かって伸び、神にささえを見いだすのである。生命の流れをぶどうの実から奪ってしまうほど葉が多ければ、その葉を刈り込まねばならない。繁茂し過ぎているのは切り落して、義の太陽のいやしの光線のはいる余地をつくらねばならない。農夫は、もっとみごとな、もっとたくさんの実がなるように、成長を刈り込むのである。」(同上 165, 166)

個人的な復習問題

金/8月15日

1. わたしはどのようにキリストのうちに宿りますか。
2. わたしはどのようにこのお方の「剪定ばさみ」の恩恵を受ける者になることができますか。
3. わたしの生活において、何がこの「剪定」の結果でしょうか。
4. なぜキリストはこのつながりを例証するのに、ぶどうの木をお用いになりましたか。
5. 実り多いクリスチャン生涯のための基盤は何ですか。

兄弟愛

暗唱聖句：「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネによる福音書 13:34)

「キリストのみたまを吹きこまれる者はみなキリストが愛されたように愛するのである。キリストを動かした原則がお互いの間における彼らの態度の動機となるのである。」(各時代の希望下巻 167)

推奨文献： キリストの実物教訓 353-368

1. 新しいいましめ

日/8月17日

- a. 偉大な模範者により、どれほど大きな愛が表されましたか。またこのお方に従う人々にとって、その意義は何でしたか(ヨハネによる福音書 13:1 (下旬) ; 15:13)。

「この愛はなんと広く、なんと満ちみちていたことであろう!弟子たちはキリストが自分たちを愛されたように、互いに愛すべきであった。これが、世に対してキリスト、栄光の望みが内にかたちづくられていることを証言する彼らの証となるのであった。そのとき、弟子たちはそのいましめの新しい部分を理解していなかった。しかし、キリストの苦難の後、このお方の十字架、復活、昇天の後、彼らは神の愛が何を含んでいるかについて、彼らがたがいに働かせるべき愛についていくぶんかわかるようになってきた。聖霊がペンテコステの日には彼らの上にとどまった後、その愛が表された。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 10 月 20 日)

- b. 御霊の最初の実は何ですか。またこの実がわたしたちのうちに完成されつつある証拠は何ですか(ガラテヤ人への手紙 5:22; ヨハネの第一の手紙 4:11-13; 3:18)。

「人を助け、人を恵みたいという衝動が絶えず心からわき出るときに、クリスチャン品性は完成する。」(患難から栄光へ下巻 254)

- a. どの意味において、キリストは兄弟愛について「新しいいましめ」として言及されたのですか (ヨハネによる福音書 13:34)。

「弟子たちにとって、このいましめは新しいものであった。彼らは、キリストが彼らを受えられたように互に愛していなかったからである。新しい考えと動機が彼らを支配しなければならないということ、新しい原則を彼らが実行しなければならないということ、主の生涯と死を通して彼らが愛について新しい観念を受け入れるということ、キリストはお知りになった。互いに愛し合いなさいという命令は、主の自己犠牲の光に照らしてみると、新しい意味を持っていた。恵みの全体の働きは、愛と克己と自己犠牲的努力のたえまない一つの奉仕である。キリストが地上に滞在しておられた一刻一刻に神の愛はおさえることのできない流れとなってキリストから流れていた。キリストのみたまを吹きこまれる者はみなキリストが愛されたように愛するのである。キリストを動かした原則がお互いの間における彼らの態度の動機となるのである。」(各時代の希望下巻 167)

- b. わたしたちが神の子であること、またキリストの友であることを表すものは何ですか (ローマ人への手紙 8:14; ヨハネの第一の手紙 3:10)。

「宗教とはキリストのみことばを行なうことにある。行なうのは、神の恵みを得るためではなく、全くそれに値しないのにわたしたちが神の愛の賜物を受けたからである。キリストは、人間の救いを単なる告白によるものではなく、義の行ないに現わされる信仰によるものとされたのである。単に言うだけでなく、行なうことが、キリストに従う者に期待されている。品性が築かれるのは行為によってである。『すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である』(ローマ 8:14)。心にみたまが触れる者ではなく、時々、みたまの力に屈伏する者でもなく、みたまに導かれている者が神の子なのである。」(祝福の山 186, 187)

「キリストの信徒たちの品性と気質は、彼らの主人のそれと似るようになる。このお方が型であり、クリスチャンが模倣すべき聖にして完全な模範である。このお方の真の信徒たちは自分の兄弟を愛し、彼らと調和のうちにいる。彼らはキリストが模範を残されたように自分の隣人を愛し、もし彼らがそうすることによって魂に罪を離れ、真理に改心するよう説得できるなら、どんな犠牲でも払うのである。」(教会への証 3 巻 58, 59)

- a. イエスはご自分に忠実に従う人々にどのような肩書を授けられましたか。それはなぜですか (ヨハネによる福音書 15:15, 14)。

「キリストは言われた、『あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である』。これが課された条件である。これが人の品性を証明する試金石である。」(教会への証 4 巻 188)

「現代は、神の僕たちにとって、厳粛な特権と神聖な信任の時である。もしこれらの信任が忠実に守られるならば、主人が『あなたの会計報告を出しなさい』と言われるときに、忠実な僕たちの報いは大きいであろう。熱心な労苦、無私の働き、忍耐づく辛抱強い努力は、豊かに報われるようになる。イエスは次のように言われた、わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばず、友、客と呼ぶ。主人の承認が与えられるのは、なされた働きの大きさのゆえではなく、多くのことを得たからではない。そうではなく、小さい事にさえ忠実であったからである。わたしたちの達成した偉大な結果ではなく、どの動機によって行動したかを、神は量られる。このお方は成し遂げられた働きの偉大さよりも、善と忠実さを重んじられる。」(同上 2 巻 510, 511)

- b. どの目的のために、イエスはわたしたちを選ばれましたか。またこの特権に伴う責任は何ですか (ヨハネによる福音書 15:16, 17)。

「救い主は、人間の愛がとうてい及び得ない愛を表わされた。彼は、わたしたちが、傷ついて死にひんしていたときに、わたしたちをあわれんでくださった。彼は天の全軍の愛が一身に注がれていた清い幸福な天にお留まりにならなかった。彼は、わたしたちの哀れむべき悲惨な姿を見て、それを理解し人類とご自身とを一つに結びつけられたのである。主は、敵を救うためになくなられたのである。主は、ご自分を殺す者のために祈られた。主は、ご自分の模範を指さしながら、『これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。』『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい』と彼の弟子たちに言われるのである (ヨハネ 15:17; 13:34)。」(キリストの実物教訓 359)

「わたしたちは、キリストのしもべであると主張し、神のことばの中の真理を全部信じるという試みても、信じるのがわたしたちの日常生活のなかで行なわれていないならば、隣人に対してなんの役にも立たない。」(同上 361)

- a. 世はキリストの友に何をしますか。それはなぜですか（ヨハネによる福音書 15:18, 19）。

「人が強制や利己心によってではなく、愛によってむすばれるとき、彼らは人間の力にまさる力が働いていることを示すのである。この一致があるとき、それは神のみかたちが人のうちに回復され、新しい生命の原則がうえつけられた証拠である。それはまた超自然的な悪の力に抵抗するのに神の性質には力があるということ、神の恵みは生れつきの心に固有の利己心を征服するということを示している。

この愛が教会内であらわされると、かならずサタンの怒りがひき起こされる。キリストは弟子たちに安楽な道をお示しにならなかった。」（各時代の希望下巻 167, 168）

- b. なぜ世はキリストを迫害したのですか。またなぜキリストに従う人々もまた迫害されるのですか（ヨハネによる福音書 3:19, 20; 15:20, 21）。

「義と罪、愛と憎悪、真理と誤謬（ごびゅう）の間には、押えがたい闘争がある。人がキリストの愛と聖潔の美しさを示すならば、彼はサタンの王国の臣下を引き離しているのである。だから悪の君はそれに抵抗して立ち上がる。キリストのみたまに満たされているすべての者には迫害と非難が待ちけている。迫害の性質は時代によって変わるが、その本質—その根底を流れる精神—は、アベルの時以来、主の選民を殺してきたのと同じ精神である。」（祝福の山 36）

「神の真理が世に人気があったことはかつてなかった。生来の心はいつも真理を忌み嫌う。わたしは、カルバリーの人に従う者となるためには、世の愛、心の誇り、偶像礼拝の傾向を持つすべてを捨てなければならないことを神に感謝する。真理に従う人々は、決して世に愛されることも、尊ばれることもない。人の子らの間を神聖な教師が謙遜のうちに歩まれたときに、その唇から次の言葉が聞かれた、だれでもわたしの弟子になりたいならば、自分の十字架を負って、わたしに従ってください。しかり、わたしたちの模範なるお方に従いなさい。このお方は人々の賞賛や誉を求めておられたでしょうか。ああ、そうではない！であれば、わたしたちは世俗的な者たちから誉れや賞賛を求めるのであろうか？

神に対する愛がない者は、神の子らを愛さない。天からの命令の言葉を聞きなさい、『人が皆あなたがたをほめるときは、あなたがたはわざわざいだ。』（教会への証 2 巻 491）

- a. パウロは偽物に対して、真のクリスチャンの愛を、どのように識別していますか（コリント人への第一の手紙 13:1-8）。

「口先で、どんなに立派なことを言っても、もし心の中に、神と同胞に対する愛が満ちていなければ、キリストの真の弟子ではない。大いなる信仰を持ち、奇跡を行うほどの力があっても、もし愛がなければ、その信仰は価値がない。また、大いなる施しが行われるかもしれない。しかし、それが真の愛以外の動機によって行われたとするならば、自分の全財産を人に施しても、その行為によって神の恵みにあずかることはできない。また、熱心さのあまり、殉教の死をとげることさえするかもしれない。しかし、もしそれが愛の動機によるものでなければ、神は彼を、惑わされた熱狂家、あるいは野心的偽善者とみなされることであろう。」（患難から栄光へ上巻 343）

- b. ヨハネの黙示録 3:10-12 の中にキリストによって推奨されている特徴について、それらを持っている人々への約束と同様に、何を悟らなければなりませんか。

「純潔で聖なる礼服は、だれひとり都の門を入ってきたあとで着るように用意されたのではない。入る人は皆、キリストの義の衣をまとい、神のみ名がその額に見られなければならない。この名前は使徒がまぼろしの中で見た象徴であり、それは思いを知的で忠誠な神のすべての戒めへの従順へ明け渡したことを意味する。罪や欠点を覆うことも、品性の醜さを隠すことも、半分だけ洗われた衣もない。すべては純潔でしみがないのである。」（ユース・インストラクター 1886 年 8 月 18 日）

個人的な復習問題

金/8月22日

1. 神聖な愛の資質をキリストはわたしのうちに発達させたいと望んでおられますか。
2. わたしがキリストの無私の愛を完全に受けることを妨げているのは何ですか。
3. キリストのいましめはどのようにわたしにとって新しくなりますか。
4. 迫害の時に、なぜ驚くべきではないのですか。
5. ヒラデルヒヤ時代の信徒への祝福を述べなさい。

聖霊の使命

暗唱聖句：「それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目をひらくであろう。」
(ヨハネによる福音書 16:8)

「聖霊は、聖書を通して心に語り、真理を心に印象づける。こうしてみたまは誤りをばくろし、それを魂から追い出される。キリストが選民をご自身に心服させられるのは、真理のみたまが神のみことばを通して働くことによってである。」(各時代の希望下巻 156)

推奨文献： 教会への証 8 巻 14-23

1. 「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない」 日/8月24日

- a. キリストの昇天後、弟子たちはどのような困難に直面することになっていましたか
(ヨハネによる福音書 16:1-3)。

「主のために牢獄に横たわり、あるいはさびしい島に追放されている忠実なしもべたちのことを、主は全部知っておられる。主は自らそこにいて彼らを慰められる。真理のために信者が不正な裁判の座に立つとき、キリストは彼のかたわらに立っておられる。彼の上に浴びせられるすべての非難はキリストの上に落ちかかるのである。キリストがその弟子の身代りとなってふたたび有罪の宣告を受けられるのである。人が牢獄の壁の中に閉じこめられるとき、キリストはご自分の愛をもって心をよろこばせてくださる。」(各時代の希望下巻 153, 154)

- b. 弟子たちにはどのようなことが保証されましたか。どのようにですか (ヨハネによる福音書 14:18; 15:26)。

「〔キリストは〕 ご自分の代理人、神格の第三位なるお方を与えることを決められた。この賜物にまさるものはなかった。このお方はすべての賜物を一つの中に与えたいと望まれた。そこで神なる御霊、改心させ、啓発し、聖化させる力がこのお方の寄贈となるのであった。」(今日のわたしの生涯 36)

- a. キリストの昇天後、キリストとその従者たちの間の関係には、どのような相違が生じるようになっていましたか (ヨハネによる福音書 16:7)。

「それ以来、キリストは聖霊を通してつねにその子らの心のうちに住まれるのであった。こうして彼らは、この地上に主がおられたときよりいっそう近く主と一つになることができたのである。内住するキリストの光、愛そして力が弟子たちから輝き出た。」(キリストへの道 101, 102)

- b. 聖霊は罪人のために、どのような遠大な働きをなされるのですか (ヨハネによる福音書 16:8-11)。

「聖霊はあがない主の死によって可能となった救いを与えるために、霊的な生まれかわりの力として賜るものである。み霊は、カルバリーの十字架上でささげられた大きな犠牲に人々の注意を向けさせ、この世に神の愛を示し、改心した人々に聖書の大切な事柄を提示しようと絶えず努めている。

聖霊は人々に罪を認めさせ、義の標準を心に示してから、この世のものに対する愛着を取り除き、魂を聖なる事物への願望で満たす。『あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう』と、救い主は言われた。もし人々が造りかえられることを望むならば、全人格のきよめがなし遂げられるであろう。み霊は神に関する事柄を取り、それを魂に刻みつける。み霊の力によっていのちの道は明らかにされ、そこではだれも過ちをおかす必要がない。」(患難から栄光へ上巻 48-50)

- c. 聖霊は、他にどのような重要な使命を世の前で成し遂げるようになっていましたか (ヨハネによる福音書 15:26)。

「世に警告を与えるべきなのは、聖霊の一致と生ける証人の証である。神のための働き人は、天からの伝達が与えられる代理者であり、聖霊は真理の言葉に神聖な権威をお与えになる。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1053)

- a. 聖霊の他に、だれがキリストのための証をしますか (ヨハネによる福音書 15:27; ヨハネの第一の手紙 1:1-3)。どのようにですか。

「たとえば実業家であれば、誠実に仕事をして主に栄光を帰すことができる。もしその人が真のクリスチャンであるならば、すべて自分の信じている宗教にしたがって事をなし、キリストの精神を人にあらわす。また、職人であれば勤勉に忠実に働いて、ガリラヤの丘で卑しい仕事に励まれたイエスを代表することができる。キリストのみ名を名乗る者は誰でも、他の人がその良い行いを見て、創造主、あがない主なる主をあがめるように導かねばならない。....

愛の精神をもって、この世のどんな卑しい仕事も『主に対してするように』(コロサイ 3:23) することができる。神の愛が心のうちにあれば、それは生活にあらわれてくる。キリストのよいかおりがわたしたちを囲み、私たちの感化は他の人々を高め祝福するのである。」(キリストへの道 112, 113)

- b. 将来のためのどの特別な約束が、神の民に旧約時代に預言者ヨエルを通して与えられていましたか (ヨエル書 2:28, 29)。
- c. いつ、そしてどのようにこの約束は部分的に成就しましたか (使徒行伝 2:1-7, 16-18)。

「キリストの昇天は、主に従う者たちが約束の祝福を受けることのしるしであった。彼らは、仕事にとりかかる前にこれを待たなければならなかった。キリストは天の門の中に入って行かれて、天使たちのさんびのうちに王座につかれた。この儀式が終わるとすぐ、聖霊は豊かな流れとなって弟子たちの上にくんだり、キリストは永遠の昔から父と共に持つておられた栄光をお受けになった。ペンテコステの聖霊降下は、あがない主の就任式が完了したことを知らせる天からの通報であった。主は、その約束に従って、ご自分が祭司、また王として、天と地のすべての権威を引き継ぎ、神の民の上に立つ油そそがれた者となられたしるしとして、弟子たちに天から聖霊を送られたのであった。」(患難から栄光へ上巻 32, 34)

- a. ヨエル書 2:28-32 にある約束はわたしたちにもまた当てはまることが、どのようにわかりますか (使徒行伝 3:19)。

「この約束は、彼らのためであつたのと同様にわたしたちのためである。それでありながら、それが民の前に提示されること、それを受けることが教会内で語られることは、何とまれなことであろう。最も重要なテーマに関するこの沈黙の結果、その実際的な成就によって、自分たちのあらゆる霊的な働きに効力を与えるはずのこの聖霊の賜物という豊かな約束ほど、わたしたちが知らない約束があるだろうか？ 聖霊の約束は何気なくわたしたちの説教に持ち込まれ、たまに触れられ、そしてそれだけなのである。預言は多く語られ、教理は詳述されてきた。しかし、それらが霊的な力と能力において成長できるために、教会にとって重要不可欠なもの、説教が説得力を伴うもの、そして魂が神に改心させられるものが、大部分、牧会の努力から除外されてきた。」(牧師への証 174)

「もし教会の信徒たちが自分たちのできる働きをなすために立ち上がるなら、自分たちに課されている戦いを続けるなら、各自が魂をイエスに勝ち取るために、自分にどれほどのことが成し遂げられるかを認めるなら、わたしたちは多くの人々がサタンの隊列を離れてキリストの旗印のもとに立つことを見るであろう。もしわたしたちの民がこれらのわずかな教への言葉の中に与えられた光に従って行動するなら、わたしたちはたしかに神の救いを見るようになる。すばらしいリバイバルが続くであろう。罪人たちは改心し、多くの魂が教会に加えられるであろう。わたしたちの心がキリストとの一致に導き入れられるとき、そしてわたしたちの生活がこのお方の働きとの調和に入るときペンテコステの日に下った御霊が、わたしたちの上を下るのである。」(教会への証 8 巻 246)

- b. 今日、わたしたちの主な関心は何であるべきですか。またわたしたちは何を熱心に主に祈るべきですか (ヨハネによる福音書 16:12-14; ゼカリヤ書 10:1)。

「ああ、わたしたちはみな聖霊のバプテスマを必要としている。そのとき、わたしたちはキリストの思いをもって、親切、思いやり、同情をもって、罪に対しては完全な憎しみをもって憎みながら、罪人への愛を示しつつ、つねに働くようになる。」(伝道 上巻 369)

「神の民の間で目覚めが必要である。このお方のみ働きが力をもって前進できるためである。わたしたちは聖霊のバプテスマを必要としている。神がご自分の民の隊列に能力と感化力の人、すなわち世を警告するにあたり、自分たちの分を果たす人を加えて下さることを理解する必要がある。」(同上 558, 559)

- a. わたしたちはどのように後の雨の力を持って聖霊が注がれるために、準備すべきですか（ホセア書 6:1-3）。

「わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしていながら、主の日に立ち得て神のみ前に 生きるにふさわしいものとなるために『『慰めの時』と『春の雨』（後の雨）』とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなければならない慰めを、受けることができなかった。預言者に切り刻まれることを拒み、すべての真理に従って、魂を清めることをしない者、そして、自分たちは、実際よりは、はるかによい状態にあると思い込んでいる人々は、災害がくだるときになって、自分たちが建物に合わせて切り刻まれ、四角にされなければならないことを悟るのである。しかし、その時には、そうする時間もなく、天の父の前で彼らの執り成しをしてくださる仲保者もおられない。この時に先だつて『不義なものはさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うまにさせよ』という厳粛な宣言が発せられたのである。すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、だれひとりとして、『慰め』にあずかることができないのをわたしは見た。であるから、われわれは、ますます主に近づき、主の日の戦いに立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなければならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だけであることを、すべての者が覚えているようにしよう。」（初代文集 149, 150）

個人的な復習問題

金/8月29日

1. 聖霊はどの働きをわたしのうちでなしておられますか？またどのようにこのお方は、もっと大きな規模で、わたしを神のみ手のうちにある器として用いたいを思っておられますか。
2. 何がわたしのうちで、聖霊を満ちみちて受けるのを妨げているかもしれませんか。
3. わたしの教会が満ちみちた御霊を受けるのを助けるために、わたしのなすべき分は何ですか。
4. 地上における聖霊の働きを説明しなさい。
5. ヨエル書 2:28-32 の預言の適用を述べなさい。

第一安息日献金 ルワンダ、マホコの学校

ルワンダ共和国は、東アフリカに位置し、タンザニア、コンゴ民主共和国、ウガンダ、ブルンジに接しています。この国の経済は、2000 年代初頭からコーヒーや紅茶の輸出、農業生産、石炭、エネルギー、ボトル水などを通じて大きく成長しました。「千の丘の国」として知られるルワンダは、近年、美しい川や湖があることで観光客を惹きつけています。特に、私たちの学校プロジェクトがあるマホコ市の近くで見られます。



1300 万人以上の人々が住むここでは、言語はネイティブのキニアルワンダ語、フランス語、英語 (20%が話す公用語)、およびスワヒリ語です。人口の中では、43.7%がカトリック、37.7%が主流のプロテスタント、11.8%がセブンスデー・アドベンチスト (他のプロテスタントとは異なるカテゴリーとして挙げられます)、そして 2.0%がイスラム教徒で、他の宗教が続きます。

ここで公言されているあらゆる宗教にもかかわらず、ますます墮落が増し加わっている世において、わたしたちは自分の子供たちの徹底的な教育に投資する必要があります。大きなことを見ています。「真の教育とは伝道者を養成することであって、神のむすこ、娘はすべて伝道者となるように召された者である。わたしたちは神と人々に奉仕するために召されている。そしてこの働きに適した者となることが、わたしたちの教育の真の目的でなければならない。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 364)

子供たちがこの世界の事物にさらされる中で、私たちの子供たちを敵の策略から守ることがますます難しくなっています。一度はアクセスが制限されていたものが、今やスマートフォンや他のデバイスを通じて文字通り私たちの子供たちに取り付けられています。私たち自身の子供たちがそのための準備ができていないのに、どのようにして伝道のための働きに備えることができるでしょうか？政府の学校に通う私たちの子供たちが安息日に授業に出なければならないというさらに大きな懸念があります。ですから、必要性は切迫しています。

私たちの財政資源が不足しているため、世界中の兄弟姉妹に、この学校の建設に向けて寄付をしていただくようお願い申し上げます。

最初の安息日献金が集められるとき、どうか寛大にご奉仕ください。この千の丘の中のこの学校プロジェクトを通して神が栄光を受けるように。私たちの祈りは、主が贈り物と贈り手に豊かに祝福を与えてくださることです！

ルワンダから皆さんの兄弟姉妹より

キリストが弟子たちのために祈られる (1)

暗唱聖句：「わたしは彼らのためにお願いします。わたしがお願いするのは、この世のためにではなく、あなたがわたしに賜った者たちのためです。彼らはあなたの者なのです。わたしのものは皆あなたのもの、あなたのものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。」(ヨハネによる福音書 17:9、10)

「この〔ヨハネ 17 章にある〕祈りは、救い主が人類のために大いなる犠牲、ご自身という捧げものを完成されたときに、幕の内 でなさるとりなしに関する教訓である。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホフ・コメント] 5 巻 1145)

推奨文献： 教会への証 5 巻 737-746

1. キリストの弟子たちとの最後の祈り 日/8月31日

- a. イエスが弟子たちに指示をお与えになった後、彼らと最後に何をなさいましたか(ヨハネによる福音書 17:1, 9)。

「〔ヨハネ 17:1-6 引用〕。これはキリストの弟子たちとの最後の祈りであった。それはゲッセマネの園へ行かれる直前に捧げられた。そこでこのお方は裏切られ、捕らえられるのであった。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホフ・コメント] 5 巻 1145)

- b. キリストはこの祈りの開始に、何を明らかになさいましたか(ヨハネによる福音書 17:1, 2)。

「ヨハネ 17 章は明白に神とキリストの個性、またお互いの関係性について語っている。」(同上)

「祈りをもってヨハネ 17 章を研究しなさい。この章をくりかえし読むだけでなく、その真理は食し、消化しなければならない。」(教会への証 8 巻 80)

- a. イエスは永遠の命の基盤として、どの基礎的な真理を宣言されましたか(ヨハネによる福音書 17:3)。

「キリストの中にあらわされているような神についての知識は、救われる者たちがみな持っていなければならない知識である。これこそ、品性を変える作用をする知識である。生活の中に受け入れられるとそれはキリストのみかたちに魂を造りかえるのである。これこそ、神が子らに受けさせようと招いておられる知識であって、これ以外はすべてむなしく、価値のないものである。」(患難から栄光へ下巻 168)

「イエスは言われた。『父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである』。もしわたしたちの信仰が、キリストを通して神に固定しているならば、それは『たましいを安全にし不動にする錨であり、かつ「幕の内」にはいり行かせるものである。その幕の内に、イエスは、…わたしたちのためにさきがけとなって、はいられた』。失望がおとずれるのは事実である。患難を予期していなければならない。しかし、わたしたちはすべてを、大小共に、神に委ねなければならない。このお方はわたしたちの悲嘆の多さに困惑することも、わたしたちの重荷の重さに圧倒されることもない。このお方の見守りはすべての家庭に及び、すべての個人を包む。このお方はわたしたちのすべての取引きや悲しみを顧みてくださる。このお方は一粒ひとつぶの涙に目をとめ、わたしたちの弱さを思いやって下さる。ここでわたしたちに降りかかることが許されたすべての苦悩や試練は、わたしたちに対するこのお方の愛のご目的をはたし、『そのきよさにあずからせ』、こうしてこのお方のみ前に見いだされる満ちみちた喜びにあずかるようになる。」(教会への証 5 巻 742)

- b. キリストを知るとはどういう意味ですか。またそのような知識の結果は何ですか。ホセア書 6:3 とヨハネによる福音書 17:3 を比較しなさい。

「わたしたちが神を知ることができるのは、キリストを知ることによってのみである。…キリストを救われるように知るということは、霊的な知識によって生きる力を受けること、このお方のみ言葉を実践することである。それがなければ、他の一切は無益である。

キリストはこの世に、御父を表すために来られた。なんという忍耐、なんという憐れみ深いやさしさ、なんという神聖な同情、なんという目的の堅固さを、このお方は表されたことであろう! このお方は弱ることも失望されることもなかった。このお方は純潔の例証であり、その愛は比類がなかった。一步ごとに、自己否定と自己犠牲を実践された。ご自分の死において、このお方は神と人との間の和解の啓示であられた。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1898 年 1 月 27 日)

「神を知れば神を愛するようになる。」(各時代の希望上巻 4, 5)

- a. キリストの公生涯の間、このお方の地上生活は何で成り立っていましたか(ヨハネによる福音書 17:4)。

「イエスがなされたすべての恵み深い行いにおいて、このお方は、比類のない慈愛に満ちた神の特質を人に印象づけようとされた。ご自分のすべての教訓において、人々に『神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである』というすばらしい真理を教えようとしておられた。イエスは、わたしたちが御父の愛を理解することを望んでおられる。そして御父の親のような恵みを提示することによって、わたしたちを引き付けようとしておられる。…

イエスはご自身の生活において神のご品性を例証するために、そしてサタンが起源を発する誤解を一掃し、神の栄光を表すために、この世に來られた。このお方が、ご自分の天父の憐れみ、同情、愛を表すことができるのは、人々の間に住むことによつてのみであった。なぜなら、このお方が神の恵みを表明できるのは、慈愛の行為によつてのみだからである。」(神の息子むすめたち 139)

- b. イエスはご自分の地上の使命の終わりに、御父に何をお求めになりましたか(ヨハネによる福音書 17:5)。

「キリストは人性の栄光のあらわれを求めて祈られたのではなかった。なぜなら、人性は、決してこのお方の先在のうちには存在していなかったからである。このお方は、神と一つである中に有しておられる栄光に関して、御父に祈っておられるのである。このお方の祈りは、伸保者の祈りである。このお方が嘆願しておられる恩寵は、このお方が神と一つであられたときに、ご自分が有しておられた神聖な栄光のあらわれであった。覆いを取り除けられるようにしよう。このお方は言われる、わが栄光一世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光一が輝き出るようにしてください。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1899年5月10日)

「この地球は、神が統治しておられる広い宇宙の一原子に過ぎない。しかし神の目にはこの道に迷った一匹の羊である墮落した小さな世界は、おりからさ迷い出ない九十九匹にまさって、尊いのである。天の宮廷の愛された司令官、キリストは、この失われた一つの世界を救うために、その高い地位からくだり、天の父とともにもつておられた栄光をおすてになった。彼は天の罪なき世界、すなわち、彼を愛していた九十九匹をあとして、この世界に來られて、『われわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ』(イザヤ書 53:5)。神はいなくなった羊をまた迎え入れる喜びのために、み子を与えるとともに、ご自分をお与えになった。」(キリストの実物教訓 170)

- a. キリストと交わることによって、弟子たちはこのお方の言葉に関して、どの確信に至りましたか (ヨハネによる福音書 7:17; 17:7)。今日、わたしたちの義務は何ですか。

「真理を知ろうと求め、また神のみ旨を理解しようと求めている人々、光に対して忠実で、自分たちの日ごとの義務を行うのに熱心な人々は、たしかに教理を知るようになる。なぜなら、彼らはあらゆる真理に導かれるからである。神は、人が真理を求めようとせず、真理を知ろうという願いもない時に、ご自分の支配的な摂理の行為によって、不可抗力的に人をご自分のあらゆる真理に導くとは約束しておられない。人には神の御霊を消す力がある。選択する力が人に委ねられている。彼らには行動の自由が許されている。彼らはわたしたちに贖い主の御名と恵みを通して従順になることもできるし、不従順になり、その結果を自覚することも可能である。人には神聖にして永遠の真理を受けるか、拒むかの責任がある。神の御霊は絶えず説得している。そして魂は真理の側に着くか反対するかを決定するのである。」(教会への証 3 巻 427, 428)

- b. イエスは使徒たちの信仰に関して、ご自分の御父に何と言われましたか (ヨハネによる福音書 17:8)。今日これらのみ言葉は、どのようにわたしたちに当てはまりますか。

「〔ヨハネ 17:3, 8 引用〕。ここにわたしたちの前におかれた働き、キリストがわたしたちの世において御父の代表者であられたように、わたしたちがキリストの代表者になるという働きがある。わたしたちはキリストの教訓の中で与えられたみ言葉を教えるべきである。…わたしたちは贖罪の日の本体にいる。そしてわたしたちは神のみ前に自分たちの心をへりくだらせて、自分の罪を告白するばかりでなく、自分たちのあらゆる教育したタラントによって、接触するようになった人々を教え、教えと模範によって神と神がつかわされたキリストを知るように彼らを導くよう努めるべきである。」(クリスチャン教育 157)

- c. イエスは特にだれのために、ヨハネ 17 章の中にあるお祈りをお捧げになりましたか (ヨハネによる福音書 17:9, 20)。

「〔キリスト〕は最も低い、最も圧迫され、苦しんでいる人のために、最も試練を受け、誘惑されている人のために、とりなしをしておられるのである。」(わたしたちの高い召し 49)

- a. イエスはご自分の弟子たちを通して、どのように栄光をお受けになりますか (ヨハネによる福音書 17:10, 11)。この働きが実行されるためには、何が必要ですか。

「キリストは、天の秩序、天の統治制度、天のきよい調和を地上のご自分の教会にあらわすように意図しておられる。このようにして、キリストはご自分の民によって栄光を受けられるのである。彼らを通して義の太陽はくもりのない光輝をもって世を照らすのである。....キリストの義をさすけられている教会は、キリストの宝庫であって、そこではキリストのあわれみ、恵み、愛という富が十分にあますところなくあらわされる。キリストは、ご自分の屈辱の報い、またご自分の栄光を補足するものとして、ご自分の民の純潔と完全をごらんになる。キリストは、大いなる中心であって、そこからすべての栄光が放射される。」(各時代の希望下巻 171)

「弟子たちは、キリストにつながっていたときにのみ、聖霊の力を受けて、天使たちの協力を期待することができた。このような天来の力の助けをうけて、彼らは世に対して共同戦線をはることができ、また彼らが暗黒の力にたえまなく立ち向かうことを強いられている戦いにおいて、勝利することができた。弟子たちがたえず結束して働いているかぎり、天使たちは彼らを先導し、道を開くのである。そして人々の心は真理を受け入れる準備をし、多くの者がキリストへと導かれる。彼らが結束しているかぎり、教会は『月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のよう』に前進したのである(雅歌 6:10)。何ものも教会の前進に逆らうことはできなかった。教会はこの世に福音を宣伝する天来の使命を立派に果たし、勝利から勝利へ進むのである。」(患難から栄光へ上巻 92, 93)

個人的な復習問題

金/9月5日

1. キリストについての個人的な知識は、わたしの運命に、どのように影響しますか。
2. どのような方法において、わたしのクリスチャン経験は、神のみ手のうちに教育的な道具として用いられることが可能ですか。
3. わたしはどのようにもっと完全にキリストに栄光を帰すことができますか。
4. イエスは、ご自分の弟子たちと、どのような状況下で終わりの時代のために祈られましたか。
5. キリストの初臨の理由を説明しなさい。

キリストが弟子たちのために祈られる (2)

暗唱聖句：「そしてわたしは彼らに御名を知らせました。またこれからも知らせましょう。それは、あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らのうちにあり、またわたしも彼らのうちにおるためであります。」(ヨハネによる福音書 17:26)

「聖別された大祭司として、キリストはご自分の民のためにとりなされる。忠実な羊飼いとて、キリストはご自分の群れを大能のかげ、じょうぶで安全なかこの中にお集めになる。サタンとの最後の戦いがキリストを待っている。主はその戦いに応ずるために出て行かれる。」(各時代の希望下巻 172)

推奨文献： きよめられた生涯 61-69

1. キリストのうちに一致する

日/9月7日

- a. キリストはご自分のとりなしの祈りの中で、教会の成功にとって重要不可欠などの点をくり返し、述べられましたか(ヨハネによる福音書 17:11 (下句), 21-23)。

「〔キリスト〕は、ご自分が御父と一つであられるように、ご自分の弟子たちが一つになるようにと祈られる。この信徒たちの一致が世に対して、このお方がわたしたちをおつかわしになったこと、わたしたちがこのお方の恵みの証拠を担っていることの証となるのである。」(今日のわたしの生涯 252)

「もしわたしたちが個々に神に近づくなら、そのとき、どのような結果になるかを見ないであろうか。あなたは互いに近づくようになることがわからないであろうか。わたしたちは神に近づき、同じ十字架の下に来ながら、わたしたちの心が共に完全な一致に混じりあわずにはいられない。」(わたしたちの高い召し 96)

- b. 教会はどのように一致に至り、維持することができますか(ヨハネの第一の手紙 1:7)。

「信徒たちがキリストと一致するとき、自然な結果として、互いの一致へと導かれる。その一致のきずなは地上で最も永続的なものである。わたしたちは、キリストが御父と一つであられたように、キリストのうちに一つになる。クリスチャンは枝であり、ただ生けるぶどうの木につながる枝にすぎない。」(教会への証 5 巻 47)

- a. キリストはご自分の弟子たちと世に関して何と言われましたか（ヨハネによる福音書 17:13, 14）。なぜ世は彼らを迫害するのですか。

「初代のキリスト者たちは、実際、特殊な民であつた。彼らの非難するところのない行状と確固たる信仰とは、絶えず罪人の心を責めるものであつた。彼らは数が少なく、富も地位も名誉ある称号もなかったけれども、その品性と教義とが知られているところではどこでも、悪を行なう者たちにとって恐怖であつた。それゆえに彼らは、アベルが神を恐れないカインに憎まれたように、悪人たちに憎まれた。カインがアベルを殺したのと同じ理由から、聖霊の抑制を拒む人々は神の民を殺した。ユダヤ人が救い主を拒んで十字架につけたのも、同じ理由からであつた。すなわち彼の品性の純潔と神聖とが、絶えず彼らの利己心と墮落とを責めたからであつた。キリストの時代から今に至るまで、彼の忠実な弟子たちは、罪を愛してその道を歩む者たちの憎しみと反対とを引き起こしてきたのである。」（各時代の大争闘上巻 39, 40）

- b. 世の感化に関する限り、ご自分の子らに対する神のご計画は何ですか（ヨハネによる福音書 17:15, 16）。

「救い主はご自身の模範によって、弟子たちが世にありながら世のものにならないでいられることを、お示しになった。主は世の欺瞞的な快樂を味わったり、世の風習に支配されたり、世の習慣に従ったりするために来られたのではなく、父のみこころを行うために、また失われた者を探して救うためにおいでになった。この目的を目の前におくとき、クリスチャンはどんな環境にも汚されないでいることができる。身分が高かろうと低かろうと、環境がどうであろうと、彼は義務を忠実に果たすことによって、真の宗教の力をあらわすのである。」（患難から栄光へ下巻 159, 160）

「世には真のクリスチャンが十分にいない。教会は彼らを必要としている。社会は彼らなしにはやっていけない。弟子たちのためのキリストの祈りは、『わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることであります』であつた。イエスはわたしたちが世にいること、その誘惑にさらされることをご存知であつた。しかし、このお方はわたしたちを愛し、その墮落した感化力に対する勝利させる恵みを与えて下さるのであつた。このお方はわたしたちを品性において完全にしたいと望んでおられる。それによってわたしたちのわがままが他の人々のうちに、道徳的なゆがみを生じさせることがないためである。」（教会への証 5 巻 334）

- a. 真理を知り、従う人々のために、真理は何をしますか (ヨハネによる福音書 8:32; 17:17)。

「真理のパン種が心にはいると、欲望を制し、思想を清め、性質を美しくする。

...

「神のことは、人間家族の間のすべての交わりを清めるものでなければならぬ。真理のパン種は、競争心や野望をいだいて、自分を第一にしようとする心を起こさせない。天からの真の愛は、利己的でもなければ、変わりやすいものでもない。人の称賛に左右されるものでもない。神の恵みを受けた人の心は、神に対する愛とキリストが身代わりになって死なれた人びとに対する愛とにあふれる。人に、自分を認めさせようと努力することもない。人びとが、自分を愛し喜ばせるからとか、また、自分の価値を認めるから、その人びとを愛するというのではなく、彼らがキリストによってあがなわれたものであるという理由に基づいて、彼らを愛するのである。自分の動機や言行がどんなに誤解され、悪く言われても、それにこだわることなく、平静に自分の道を進んでいくのである。彼らは、親切と同情の念、へりくだった思いを持つとともに、希望に満たされ、常に神のあわれみと愛とに信頼している。」(キリストの実物教訓 74, 75)

- b. 真理はどのように定義づけられていますか (詩篇 119:142)。

「イエスのうちにあるがままの真理とは、エホバのすべての規則への従順である。それは心の働きである。聖書の聖化は、聖書を調べず、真理を隠された宝のように探すよりも良い感情や衝動に頼るような見せかけの聖化ではない。聖書の聖化は、それを有する人々を導き、神のご要求を知らせ、それに従わせる。」(彼を掲げよ 152)

- c. わたしたちは真理によって、どのように聖化されますか (ヨハネによる福音書 17:19; 16:13 (上句))。

「キリストは、わたしたちもまた聖化されるように、自らを聖化すると宣言された。このお方はご自身にわたしたちの性質を取られ、人のために欠点のない型となられた。このお方は間違いをおかされなかった。それはわたしたちもまた勝利者となり、征服者としてご自分の御国に入ることができるためであった。このお方は、わたしたちが真理を通して聖化されるようにと祈られた。真理とは何であろうか。このお方は、『あなたの御言は真理であります』と宣言された。このお方の弟子たちは、真理への従順を通して、聖化されるのである。」(今日のわたしの生涯 252)

- a. キリストがご自分のとりなしの祈りの中に、わたしたちを含んでおられることが、どのようにわかりますか (ヨハネによる福音書 17:20)。

「キリストは、最初の弟子たちに対してなされたと同じことを、今日も、その子らになそうと望んでおいでになる。」(キリストへの道 102)

「キリストの贖われた者たちはこのお方の宝石であり、このお方の貴重な特別な宝である。」(教会への証 6 巻 309)

- b. キリストの見守りは、聖霊を通して、今日わたしたちに及んでいるどの保証がわたしたちにありますか (ヨハネによる福音書 14:16)。

「弟子たちに語られたことばは、同時にわれわれにも語られている。助け主は彼らのものであるばかりでなく、われわれのものである。どんな緊急の際でも、この世の憎しみのまっただ中にあっても、み霊は、もがき、格闘している魂をささえる力をさずけられる。また彼らの失敗や誤りに気づかせてくださる。悲しみや苦しみの中で、見通しは暗く、未来は難問題ばかりのように見えるとき、また、どうしようもない孤独感におそわれているとき、こうした時こそ、聖霊は信仰の祈りに答えて、心を慰めてくださるのである。」(患難から栄光へ上巻 47)

「最大の必要なとき、失望が魂を圧倒するとき、その時こそ、イエスの見守る目は、わたしたちがご自分の助けを必要とするのをご覧になる。人の必要の時は、神の好機の時である。すべての人間の努力が失敗するとき、イエスがわたしたちを助けに来られ、このお方のご臨在が闇を追い散らし、やみの雲は上がるのである。」(教会への証 4 巻 530)

- c. イエスはご自分の祈りの最後に、ご自分の民のために、どのような願いを表されましたか (ヨハネによる福音書 17:24)。

「地の基が置かれる前から、天父とみ子は、人がもしサタンに征服されたらこれをあがなうという契約に一致しておられた。キリストが人類の保証人になられるという厳粛な誓約をおふたりはかわしておられた。この誓約をキリストは果たされたのである。」(各時代の希望下巻 386)

- a. わたしたちはキリストを通して、どのように御父を反映するべきですか（ヨハネによる福音書 17:25, 26）。

「キリストはご自身、御父の代表として世につかわされると宣言される。そのご品性の高潔さにおいて、その憐れみと優しい同情において、その愛といつくしみ深さにおいて、このお方はわたしたちの前に神の完全さの例証、見えない神のかたちとして、立っておられる。」（教会への証 5 巻 739）

- b. わたしたちは生涯においていつも何に焦点を合わせていなければなりませんか（エレミヤ書 9:23, 24）。

「わたしたち自身のうちにある功績を誇ることはみな、場違いである。

命令は、自らに栄光を帰せよ、ではなく、神に栄光を帰せよである。…であれば、人間が自らに栄光を得るような根拠は何もない。彼らが享受するすべての祝福、彼らが持っているすべての良い能力のために、彼らはキリストの恵みに負っている。だれも知恵やぎを持っていると自らを高めるべきではない。…

神の事がらに関して最も深い経験を持っている人々は、誇りや自己称揚から動くことから最もかけ離れている。彼らは自己に関して最も謙遜な思いを持っており、神の栄光と卓越さについて最も高められた概念を持っている。…わたしたちの目が天に固定されているとき、キリストのご品性をはつきりと見ているとき、自分の心の内で主なる神を高めるのである。

人が贖い主の歴史を知ると、自分自身のうちに深刻な欠点があることを発見する。自分があまりにもキリストに似ておらず、自分の生涯において根本的な変化が必要であることを認める。なおも彼は自分の偉大な模範者のようになりたいとの願いをもって研究する。」（神の息子むすめたち 235）

個人的な復習問題

金/9月12日

1. わたしは兄弟間の一致をどのように促進することができますか。
2. キリストがご自分の弟子たちのためになされた祈りから、わたしはどのように益を受けることができますか。
3. どのような方法で、神のみ名のより深い知識を発達させることができますか。
4. キリストが言われた『彼らは世のものではない』という意味を説明しなさい。
5. 「真理の聖書的な定義を要約しなさい。

キリストの審問

暗唱聖句：「すると、イエスはペテロに言われた、『剣をさやに納めなさい。父がわたしに下さった杯は、飲むべきではないか。』」ヨハネによる福音書 18：11

「恐るべき瞬間がきていた。それは世の運命を決定する瞬間であった。」（各時代の希望下巻 182）

推奨文献： 初代文集 283-289

1. 厳粛な時

日/9月14日

- a. イエスがとりなしの祈りを終えたとき、ご自分の弟子たちとどこへ行かれましたか。目的は何のためでしたか（ヨハネによる福音書 18:1; マタイによる福音書 26:36）。
- b. 三人の弟子と一緒にいくように求めながら、主はどのような要望をされましたか。それはなぜでしたか（マルコによる福音書 14:33, 34）。

「非常に大きな割合にまで悪を膨張させ、それによって贖罪は不可能であるかのように見せること、こうして失われた世を救おうとされた神の御子を罪ののろいの下に押しつぶすことが、〔サタンの〕目的であった。不法の膨大な割合をキリストに提示する用心深い敵の働きが、このお方に非常な指す痛みを感じさせたので、どんな人間にも間近にいることはできなかった。このお方はご自分の弟子たちでさえ、世の悲痛を考えるとときのご自分の苦悩を目撃させることに耐えられなかった。ご自分の最も愛する友たちでさえ、このお方に伴ってはならなかった。正義の剣がさやから抜かれた。そして悪に対する神の怒りが人間の身代わり、イエス・キリスト、御父のひとり子の上にとどまった。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1102, 1103）

- a. ゲッセマネにおけるキリストの最初の祈りの本質は何ですか（マルコによる福音書 14:35, 36）。

「キリストはいま、これまでとちがった態度をとっておられた。主の苦難は、預言者ゼカリヤのことばによって最もよくえがかれている『万軍の主は言われる、『つるぎよ、立ち上がってわが牧者を攻めよ。わたしの次に立つ人を攻めよ』（ゼカリヤ書 13:7）。罪深い人間の身代りまた保証人として、キリストは神の正義の下に苦難を受けておられた。主は、正義が何であるかがおわかりになった。これまでキリストは、他人のために執り成すおかたであつたが、いま主はご自分のために執り成してくれる者がほしいと望まれた。

キリストは、天父とのつながりが切れたと感じられたとき、人としてのご自分の性質では、きたるべき暗黒の勢力との戦いに耐えることができないと心配された。試みの荒野では人類の運命がかけられていた。その時キリストは勝利者となられた。いま誘惑者は、最後の恐るべき戦いのためにやってきていた。このために、サタンは、キリストの三年の公生涯のあいだ準備してきた。サタンはすべてをかけていた。もしここで失敗すれば、支配への望みは失われるのである。この世の王国はついにキリストのものとなり、彼自身は敗北して追い出されるのである。しかし、もしキリストに打ち勝つことができれば、地はサタンの王国となり、人類は永遠に彼の権力下におかれるのである。この戦いの結果を目の前にして、キリストの魂は、神からの隔離という恐れに満たされた。」（各時代の希望下巻 176, 177）

- b. ご自分の苦悩の祈りから戻られると、イエスはご自分の弟子たちがどのような状態にあることを見つけられましたか。彼らにどのような譴責をお与えになりましたか（マルコによる福音書 14:37, 38）。

「キリストはいたいたい努力をもって立ちあがり、連れの者たちを残しておかれた場所へよろめきながらもどってこられた。しかし彼らは『眠っていた』（マタイ 26:40）。彼らが祈っているということがわかったら、主は彼らの固い信仰に慰められたであろう。しかし彼らは、『目をさまして祈っていなさい』と何度も言われた警告を心にとめていなかった（マタイ 26:41）。最初彼らは、いつもは冷静で威厳のある主が、理解できないほどの悲しみと戦っておられるのを見て非常に心配した。苦しんでおられる主の強い叫びを聞いて、彼らは祈った。彼らは、主を見捨てる気持はなかったが、神に祈りつづけていたら払い落とせたとするもうろうとしたまひ状態に陥っているようだった。試みに耐えるためには目をさまして熱心に祈ることが必要であるということに、彼らは気がついていなかった。」（同上 179）

- a. キリストの二番目の祈りは何でしたか。また弟子たちは何をしていましたか (マタイによる福音書 26:42, 43)。そのとき、どの預言が成就しましたか (イザヤ書 52:14)。

「しばらく前には、イエスは、堂々たる杉の木のように立って、激しく襲いかかる反対の嵐に耐えておられた。頑固な意志や、悪意と狡猾さに満ちた心がイエスを混乱させ、圧倒しようとしてつとめてもむだだった。イエスは、神のみ子として天来の威厳をもって耐えられた。ところがいまイエスは、激しい嵐に打たれて折れた葦のようであった。イエスは、一步一步暗黒の勢力に勝利して、勝利者としてご自分の働きの完成に近づいておられた。すでに栄光を受けたおかたとして、イエスは神と一つであることを主張された。ためらうことのない調子で、イエスは賛美の歌を口から出された。イエスは弟子たちに勇気のあるやさしいことばで語られた。しかしいま暗黒の勢力の時が来ていた。いまイエスの声は、静かな夜の大気の中で、勝利の調べではなく、人間の苦悩に満ちた調べにきこえた。」(各時代の希望下巻 181)

- b. 神の御子は、この危機的な時のあいだ、どのように慰められましたか (ルカによる福音書 22:43)。どの言葉をもって、イザヤはキリストの苦悩と慰めを預言していましたか (イザヤ書 53:11)。

「すべてのことが危険に瀕し、神秘の杯が受難者の手でふるえているこの恐るべき危機に、天が開け、一条の光が嵐の暗黒のようなこの危機の時を照らし、サタンが落ちたあとの地位を占めて神のそばに立っている大いなる天使が、キリストのかたわらにやってきた。この天使はキリストの手から杯を取り去るために来たのではなく、キリストがそれを飲まれるのを力づけるために、天父の愛の確証をもってやってきたのであった。彼は、神と人であられる嘆願者イエスに力を与えるためにやってきた。彼は開いている天をキリストに指さし、キリストの受難の結果救われる魂について語った。天父がサタンよりも偉大で強力であられるということ、キリストの死の結果はサタンの完全な敗北であること、この世の王国はいと高き神の聖徒たちに与えられることをキリストに保証した。キリストはご自分の魂の苦しみを見て満足されるであろう、なぜなら多数の人類が救われ、しかも永遠に救われるのを見られるからであると、天使はキリストに語った。」(同上 184)

- a. イエスを捕らえた一団を導いたのはだれでしたか（ヨハネによる福音書 18:2-5）。
- b. イエスがご自身であることを彼らに名乗られたとき、怒った暴徒たちに何が起こりましたか（ヨハネによる福音書 18:6）。

「これらのことばを語っておられる時にも、イエスはご自分をさがし求めている暴徒たちの足音を聞いて、『立て、さあ行こう。見よ、わたしを裏切る者が近づいてきた』と言われた（マタイ 26:46）。イエスが裏切り者に会うためにふみ出されたとき、さっきまでの苦しみの跡はすこしも見えなかった。弟子たちより先へ出て行って、主は「だれを捜しているのか」と言われた。彼らは『ナザレのイエスを』と答えた。イエスは、『わたしが、それである』と応じられた（ヨハネ 18:4, 5）。これらのことばが語られたとき、さっきイエスに仕えた天使がイエスと暴徒たちとの間にはいった。一条の天来の光が救い主のみ顔を照らし、鳩のような形をしたものがイエスをおおった。この天来の栄光の前に、残忍な暴徒たちは一瞬間も立っていることができなかった。彼らはよろめいてうしろへさがった。祭司たち、長老たち、兵士たちは、それにユダさえも、死人のように地面に倒れた。

天使が退くと、光は消えた。イエスは逃げる機会があったが、冷静に落ち着いてふみとどまっておられた。栄光を受けたおかたとして、イエスは、いまご自分の足下に無力のまいうつぶせに倒れている冷酷な一群の真ん中に立っておられた。弟子たちは、ふしぎな思いとおそれの思いで、だまったままそれを眺めていた。」（各時代の希望下巻 185, 186）

- c. ユダの裏切りは暴徒たちにどのような影響を及ぼしましたか。またイエスの柔和は、ペテロにどのように誤って解釈されることになりましたか（ヨハネによる福音書 18:7-10; ルカによる福音書 22:47-50）。

「暴徒たちは、たったいま彼らの目の前で栄光を受けられたおかたのからだにユダがさわったのを見て大胆になった。彼らはいまイエスを捕え、これまでたえず恵みのわざをなすために用いられたそのとうとい手をしばらくとしはじめた。

弟子たちは、主が捕えられるようなことはなさらないと思っていた。なぜなら、暴徒たちを死人のように倒れさせた同じ力で彼らを無力にしておいて、イエスと弟子たちは逃げることであったからである。彼らは愛するおかたの手をしばらくのためにひもが取り出されるのを見て失望し、憤慨した。ペテロは、怒りのあまりすばやく剣を抜き、主を防衛しようとしたが、祭司長のしもべの片耳を切り落しただけだった。」（同上 187, 188）

- a. ご自分の捕えられたときに表されたイエスの忍耐強い愛を描写しなさい(マタイによる福音書 26:51-53; ルカによる福音書 22:50, 51)。天はそれをどのように見ていましたか。

「こん棒や剣をもった群衆がたちまち倒れたのを見て、弟子たちは望みをもちはじめた。人々が起き上がってまた神のみ子をと리카こむと、ペテロは剣を抜いて大祭司のしもべに きりつけ、その片耳を切り落とした。イエスはペテロに剣をおさめるように命じて、『わたしが父に願って、天の使たちを十二軍団以上も、今つかわしていただくことができないと、あなたは思うのか』と言われた。このことばが語られると、天使たちの顔色が望みによみがえって来るのが見られた。彼らは今こそイエスをとりかこんで、怒れる群衆を追い散らそうと望んだ。.... イエスが黙って敵につれ去られるのを見て、弟子たちの心はまたもや絶望とにがい失望にしずんだ。

弟子たちは自分たちの生命に危険を感じて、みなイエスを捨てて逃げた。イエスは、残酷な敵の手にただひとり残された。そのときサタンはどんなに勝ち誇ったことだろう。そして天使たちは、どんなに嘆き悲しんだことだろう。聖天使たちの多くの隊が、それぞれ 背の高い指揮者の天使を長として、その場の光景を見るためにつかわされた。彼らは、神のみ子に加えられる侮辱と残酷な行為、またイエスの経験されるあらゆる精神的な苦悩を 一つ残らず記録するように命じられた。この恐るべき場面に加わった人々は、この光景をもう一度、全部生きた姿のままに見せられるのである。」(初代文集 288, 289)

- b. ペテロに対する主の訓告から、キリストを告白するすべての人は、何を学ばなければなりませんか(ヨハネによる福音書 18:11; ヨハネの第一の手紙 3:15)。

個人的な復習問題

金/9月19日

1. 弟子たちへのどのキリストの訴えが特にわたしのために有効ですか。
2. ゲッセマネにおける主の経験は、どのようにわたしに影響を及ぼすべきですか。
3. イエスが捕らえられたときに、ペテロが示した種類の反応を、わたしはどのように避けることができますか。
4. キリストの苦悩の主たる原因は何でしたか。
5. 群衆は、天使のような栄光の前に、どのように反応しましたか。

シモン・ペテロ

暗唱聖句：「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」（ルカによる福音書 22:31, 32）

「ペテロが倒れたのは、うぬぼれのためであった。そして、彼がまた立ち上がるようにしていただいたのは、悔い改めとへりくだった思いを持つことによってであった。」（キリストの実物教訓 135）

推奨文献： 教会への証 5 卷 331-336

1. ペテロの品性

日/9月21日

- a. シモンが最初にイエスのもとへ来たとき、主人は彼に何と言われましたか（ヨハネによる福音書 1:42）。改心前のペテロの品性について、わたしたちは何を知っていますか。

「キリストの目はシモンにとまり、彼の性格と経歴とを読みとられた。彼の感情的な性質、彼の同情と愛の心、彼の野心と自信、彼がつまずき、悔い改め、働き、そして殉教 死をとげる経歴—救い主はそうしたすべてを読みとった。」（各時代の希望上巻 158）

「ペテロの弱いところは、彼自身が一番強いと考えていたところにあった。彼は、自分の弱さを感じないうちは、キリストによりたのむ必要をみとめることができなかった。」（各時代の希望中巻 125）

- b. 彼の欠点にもかかわらず、イエスはペテロにどの招きをなさいましたか（マタイによる福音書 4:18, 19）。

「イザヤに神からのメッセージがゆだねられたのは、彼が神の聖潔と自分自身の無価値とをみとめてからであった。ペテロがキリストの働きに召しを受けたのは、彼が自我を放棄し、神の力によりたのむようになってからであった。」（各時代の希望上巻 308）

- a. ペンテコステの日の聖霊のバプテスマの後でさえ、ペテロが他の人々と同じように、誤りに陥りやすかったことを、どの事実が明らかにしていますか（ガラテヤ人への手紙 2:11-14）。

「〔ペテロ〕は異邦人の改宗者たちに対する賢明な振る舞いによって、多くの人々の信頼を得た。しばらくのあいだ、彼は天来の光に従って行動した。彼は異邦人の改宗者と食事の席を共にするほどに、生まれつきの偏見を克服していた。しかし、礼典律に熱心なユダヤ人がエルサレムからやって来たとき、ペテロは異教から改心した人々に対する態度を、無分別に変えた。何人かのユダヤ人たちも『彼と共に偽善の行為をし、バルナバまでがそのような偽善に引きずり込まれた』（ガラテヤ 2:13）。指導者として愛し尊敬されている人々の弱点がこのように現れたために、異邦人の信者たちは、心に大きな痛手を受けた。教会に分裂の恐れがあった。」（患難から栄光へ上巻 213）

- b. ペテロの過ちと復帰から、わたしたちはどの教訓を学ぶことができますか（詩篇 145:14）。

「ペテロは自分が陥ったあやまちを認め、自分の力でできるかぎり、それまでの弊害を取り除くことに努めた。はじめからその終わりを知っておられる神は、ペテロが性格上の弱さをさらけだすままにさせておかれた。それはペテロが、経験を通して、自分に何も誇るべきものがないことをさとするためであった。どんなに立派な人でも、好きなようにさせておかれると、判断を誤るものである。また、将来、欺かれた人々が、神だけが持つておられる高貴な特権を、ペテロやその後継者と称する人々にも要求するようになることも、神は知っておられた。そして使徒ペテロの弱さを示したこの記録は、彼の誤りやすいことや、彼が決して他の使徒たちの上位に立つ者ではないことの証明として、残されたのである。

神の働きに重要な役割を持つ人々が、自ら高潔さを捨てることなく固く原則に立つように、この正しい原則からの離反の歴史は、厳粛な警告を与えている。人に課せられた責任が重ければ重いだけ、また、彼が命令したり、支配する機会が多ければ多いだけ、彼が神の道に慎重に従って、総会で信者たちが到達した決定に一致して働かないかぎり、彼はそれだけ大きな害を及ぼしてしまうのである。」（同上 213, 214）

- a. 教会の基礎について、イエスは何と言われますか（マタイによる福音書 16:16-19）。

「ペテロが告白した真理は、信者の信仰の土台である。これこそキリストご自身が永遠のいのちであると宣言されたものである。だがこの知識を持っていることは、自己称賛の理由にはならなかった。それがペテロに示されたのは、彼に知恵や徳があったからではなかった。人間はひとりで神についての知識に到達することはできない。....

ペテロということばは、石—ころがる石—という意味である。ペテロは、その上に教会を建てられる岩ではなかった。よみの門は、ペテロがのろいと誓いをもつて主をこぼんだときに彼に打ち勝った。教会は、よみの門が打ち勝つことのできないおかたの上に建てられた。」（各時代の希望中巻 178, 180）

- b. ペテロのように、他の預言者や使徒たちは、真の教会の基礎に関して、何と宣言しましたか（イザヤ書 28:16; コリント人への第一の手紙 3:11; ペテロの第一の手紙 2:3-6）。

「神と全天使たちの前で、また目に見えないよみの軍勢の前で、キリストは生ける岩の上にご自分の教会を建てられた。その岩はキリストご自身—われわれのために裂かれ傷つけられたキリストご自身のからだ—であった。この土台の上に建てられた教会に、よみの門は打ち勝つことができない

六千年の間、信仰はキリストの上に築かれてきた。六千年の間、サタンの怒りという洪水と嵐がわれらの救いの岩なるキリストを襲った。だがそれは動かされることなく立っている。

ペテロは、教会の信仰の基である真理を表明したので、イエスは、いまペテロに、信者全体の代表としての栄誉をお与えになった。イエスは、『わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう』と言われた（マタイ 16:19）。

『天国のかぎ』はキリストのみことばである。聖書のみことばはすべてキリストのみことばであるから、『天国のかぎ』は聖書を意味している。聖書のことばには天国を開いたり閉じたりする力がある。」（各時代の希望中巻 181, 182）

a. ペテロの品性の最大の欠点を説明しなさい (マルコによる福音書 14:27-29)。

「パリサイ人と取税人などが代表している二種の人びとのことについては、使徒ペテロの生涯がその両方のよい実例になっている。ペテロは、弟子になった始めは自分の強さをほこっていた。自分自身の評価によれば、彼もパリサイ人と同じように『ほかの人たちのよう』ではないと考えた。... ペテロは、自分の危険な状態を知らなかった。彼をおとし入れたのは自己過信であった。彼は、自分の力で誘惑に対抗できると思っていたけれども、わずか数時間後に試練がきたときに、のしりと誓いのことばとともに主を拒んだのである。」(キリストの実物教訓 132, 133)

b. イエスはこの僭越な弟子をどのように取り扱われましたか (ルカによる福音書 22:31, 32)。

「ペテロは、にわたりの鳴く声を聞いて、キリストのことばを思い起こし、自分がなんということをしたかに恐れおののいて振り返って、主の方を見た。ちょうどその瞬間、キリストもペテロをご覧になった。そしてそのまなざしは悲痛な表情ではあったが、そこにペテロに対するあわれみと愛とが混じっていた。ペテロは、それをさとして外に出て激しく泣いた。彼の心をくだいたのはキリストのそのときの表情であった。ペテロはここで人生の転換期に立っていた。そして彼は心から罪を悲しんで悔い改めた。彼は、取税人のように真心から悔い改めた。そして、取税人が受けたと同じ神のあわれみを受けたキリストのみ顔が、彼にゆるしの確証を与えたのである。

こうして、ペテロの自己過信はうせた。彼は、二度と高慢なことばを口に出さなくなった。」(キリストの実物教訓 133)

c. 復活後、イエスはペテロに何をお尋ねになりましたか (ヨハネによる福音書 21:15-17)。なぜ、イエスはこれを三度繰り返されたのですか。そしてペテロはどのように答えましたか (ルカによる福音書 22:31, 32)。

「〔ペテロ〕は主を恥ずかしめ、兄弟たちの不信を招いた。彼らはペテロが彼らの間で以前のような立場を占めることはゆるされないと考え、また彼自身も信頼を裏切ったものと思っていた。使徒としての働きにふたたび召される前に、彼は、兄弟たち全部の前で悔い改めの証拠を示さねばならない。そうしなければ悔い改めたとはいっても、彼の罪は、キリストの牧師としての彼の感化力を失わせたかもしれない。救い主は、ペテロが兄弟たちの信頼をとりもどし、彼が福音の上に招いた非難をできるだけとりのぞく機会を彼にお与えになった。」(各時代の希望下巻 352, 353)

- a. 弟子のかぎとなる特徴をいくつかあげなさい (コロサイ人への手紙 1:10, 11; 3:12-14)。キリストがペテロを扱われた方法から、何を学ぶことができますか。

「福音は悪と妥協しない。それは罪をみののがすことができない。ひそかな罪はひそかに神に告白すべきである。しかし公然の罪には公然の告白が必要である。弟子たちの罪に対する非難はキリストにあびせられる。それはサタンを勝利させ、動揺する魂をつまづかせる。悔い改めの証拠を示すことによって、この弟子は、力のおよぶかぎり、この非難をとりのぞくのである。」(各時代の希望下巻 353)

「ペテロに対するキリストの態度は本人にとっても、兄弟たちにとっても教訓となった。それは、罪を犯した者に忍耐と同情とゆるしの愛をもって対するようということを彼らに教えた。ペテロは主を知らないと言ったけれども、彼をがまんされたイエスの愛は決してゆるがなかった。キリストの牧者は、自分の手に世話をまかされた羊と小羊にこれとちょうど同じ愛を感じなければならない。ペテロは、自分自身の弱さと失敗を忘れないで、キリストが彼を扱われたようにやさしく羊の群れを扱うのであった。

キリストがペテロにされた質問には深い意味があった。キリストは、弟子であることと奉仕とについてたった一つの条件を述べられた。『わたしを愛するか』と、主は言われた。これが必要欠くことのできない資格である。ペテロがほかのあらゆる資格をそなえていても、キリストの愛がなければ、彼は主の羊の群れを飼う忠実な牧者となることはできない。知識、慈悲心、雄弁、感謝、熱意はすべてよい働きの助けとなる。しかしイエスの愛が心のうちになれば、キリスト教の牧師の働きは失敗である。」(同上 356)

個人的な復習問題

金/9月26日

1. わたしはどのように、ペテロのように、自分自身の品性を誤って判断しているかもしれませんか。
2. ペテロが表した品性の欠点を、わたしはどのように避けることができますか。
3. ペテロの墮落と復帰からどの教訓を学ぶことができますか。
4. キリストの復活後、なぜキリストはペテロに兄弟たちの面前で鋭い質問を尋ねる必要があったのですか。また、このことから何を学ぶべきですか。
5. キリストがご自分の教会を建てる基礎を説明し、天の御国のかぎが何かを特定しなさい。

第一安息日献金



安息日7月5日

タヒチのアルー教会

太平洋の離れ島に神のための灯台があることは、どれほどとでしょう！(4 ページ参照)



安息日8月2日

世界総会教育支部

まだ行くべき新しい場所が非常に有能な若い伝道者たちは知識がなければなりません。このカリキュラムを準備し続けましょう！(25 ページ参照)



安息日9月6日

ルワンダ、マホコの学校のために子供たちを主のための忠実な伝道者とするために、守り、教育します(51 ページ参照)